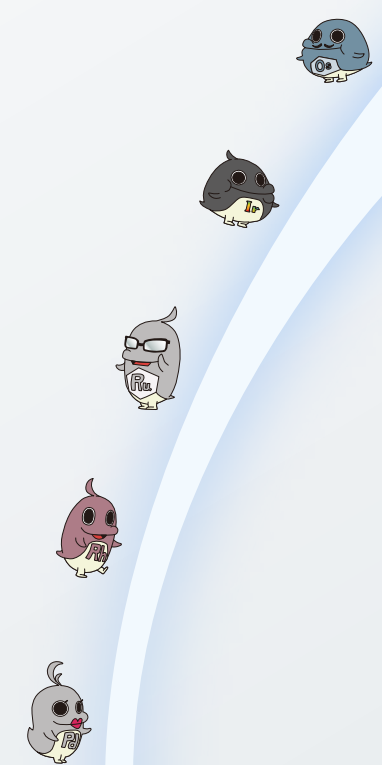




CSR 報告書 2020



白金、Platinum
触媒から抗がん剤まで、可能性を十分に秘めた期待の星。



金、Gold
装飾用はもちろん、携帯電話やスマホの中で極細線となって電気をつなぐ大切な役目を果たすマルチタレント。



銀、Silver
銀なくして写真は生まれなかった。鏡にも使われる身近な存在。



パラジウム、Palladium
水素を大量に取り込める性質で高純度水素製造装置として威力を発揮。



ロジウム、Rhodium
塊の状態であれば、どんなものにも溶けない。非常に硬く、表面を硬くするためにめっきに使われる。



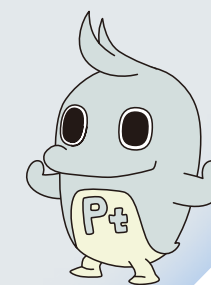
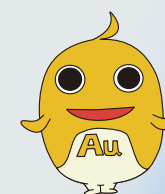
イリジウム、Iridium
硬さ、耐食性に優れ、自動車用スパークプラグや、高温に耐えるためLED用サファイヤ基板製造用のつぼにも使用されている。



ルテニウム、Ruthenium
水から水素を発生させる光触媒として活躍。ハードディスクの記録容量の増加に貢献。



オスミウム、Osmium
バイオテクノロジーや科学捜査に役立っている。



ISO26000の中核主題



組織統治



人権



労働慣行



環境



消費者課題



公正な事業慣行



コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

この冊子は石灰石から生まれた環境に優しい新素材LIMEXを使用しており、1冊で約19Lの水を守ります。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



企業理念

TANAKAグループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待にスピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。

行動指針 Code of Conduct

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. あいさつ | Greet Everyone |
| 1. えがお | Show your Smile |
| 1. かんしゃ | Give Thanks |
| 1. あんぜん | Maintain Safety |
| 1. ちょうせん | Challenge Yourself |

国内拠点

TANAKAホールディングス株式会社 (THD)

- 本社(東京)

田中貴金属工業株式会社 (TKK)

- 本社(東京) ・岩手工場 ・富岡工場 ・市川工場 ・袖ヶ浦工場
- 伊勢原工場 ・平塚工場 ・湘南工場 ・平塚テクニカルセンター
- 筑波事業所(テクニカルセンター) ・伊勢原テクニカルセンター
- FC触媒開発センター ・TANAKA物流センター
- 名古屋支店 ・大阪支店 ・福岡支店 ・京都営業所

田中電子工業株式会社 (TD)

- 佐賀本社工場 ・東京事務所 ・湘南分工場

海外拠点

田中貴金属工業株式会社 (TKK)

- 台湾田中貴金属工業股份有限公司 ・台北営業 ・高雄営業 ・田中先端有色金属材料(寧波)有限公司 ・田中先端有色金属材料(成都)有限公司
- 田中貴金属工業株式会社 ソウル支店 ・田中貴金属工業株式会社 香港支店 ・田中貴金属(上海)有限公司
- 田中貴金属(上海)有限公司 深圳分公司 ・田中貴金属(シンガポール)株式会社 ・田中貴金属(シンガポール)株式会社 マニラ支店
- 田中貴金属インターナショナル(タイランド)株式会社 ・田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社
- 田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社 サンノゼ支店 ・田中貴金属インターナショナル(欧州)有限公司
- 田中貴金属(インド)株式会社

田中電子工業株式会社 (TD)

- 田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd. (TES) ・田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd. (TEM) ・田中電子(杭州)有限公司 (TEC)
- 台湾田中電子股份有限公司 (TET) ・台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター (TET/TC)

日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

- 鉄甲新材料科技(上海)有限公司

Metalor Technologies International SA

Nippon PGM America, Inc.

日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

- 本社(東京) ・平塚事業所

田中貴金属ジュエリー株式会社 (TKJ)

- 銀座本店 ・新宿店 ・ホテル椿山荘東京店 ・伊勢丹立川店
- 伊勢丹浦和店 ・横浜元町店 ・仙台店 ・名古屋店
- 名古屋三越 栄店 ・心斎橋店 ・福岡 西鉄グランドホテル店

株式会社日本ピージーエム (PGM)

- 本社(東京) ・小坂工場

成都光明派特貴金属有限公司 (GMPT)

LT Metal Co., Ltd. (LT Metal)

Nippon PGM Europe S.R.O.



田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界で5社のみ(国内では田中貴金属工業(株)のみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

編集方針

CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会と美しい地球の未来の実現に向けて田中貴金属グループが進めているCSR(企業の社会的責任)活動を報告するとともに、今後の取り組みのレベルアップに向けてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図ることを目的に発行しています。今年「貴金属リサイクル」と「LIMEXの活用によるCSR報告書の再資源化」を特集し、循環型社会の実現に向けた田中貴金属グループの取り組みを紹介しています。

これからも皆様のお声を田中貴金属グループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日

但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

対象範囲

TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。ただし、メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社を除きます。なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

発行時期

2020年10月

参考ガイドライン

ISO26000:2010

環境報告ガイドライン2018年版

ウェブサイト

本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、下記のウェブサイトをご利用ください。
<http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html>

発行責任部署

TANAKAホールディングス株式会社

CSR・広報本部 CSR推進部

〒100-6422

東京都千代田区丸の内2-7-3

東京ビルディング22階

TEL 03-6311-5506(直)

FAX 03-6311-5508

ホームページ

<http://www.tanaka.co.jp/about/csr>

CONTENTS

02 トップメッセージ

TANAKAの強み

04 TANAKAの事業

特集

06 特集1 貴金属のリサイクル・ループによる資源生産性の追求

08 特集2 LIMEXの活用によるCSR報告書の再資源化

持続可能な未来に向けて

10 研究開発

信頼を築き続ける

12 TANAKAの信頼

14 地球環境を守る

18 地域・社会への貢献

20 一人ひとりの活躍

24 より安全な職場環境づくり

27 CSRマネジメント

28 誠実で健全な企業であるために

30 CSRパフォーマンス

33 第三者所感

2020年5月末現在

200年企業を目指して

田中貴金属グループは新たな体制で船出します



代表取締役会長
田中 明

田中 明

代表取締役社長執行役員
田中 浩一朗

田中 浩一朗

新型コロナウイルスへの対応

2020年4月より代表取締役社長執行役員に就任しました田中浩一朗です。このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患された方々にお見舞いを申し上げますとともに、治療や感染予防にご尽力いただいているすべての医療関係者の皆様に心より感謝と尊敬の意を表します。

田中貴金属グループでは、本社を中心として最大で9割の従業員が在宅勤務を行う一方、出勤が必要な場合も時差出勤やアクリルパーティション設置など感染リスク低減策を講じた上で執務を行っています。生産・開発の現場ではお客様への供給責任と共同開発責任を果たすために、また資産用・宝飾用事業の最前線では卸売・小売など貴金属流通の責任を果たすために、それぞれ感染回避の努力・工夫を重ねながら事業を継続してきました。

さらに、新型コロナウイルス感染症の終結に向けて当社が保有する知的財産権を行使しない旨を宣言するとともに(▶P11)、新型コロナウイルス感染を早期に発見するための簡易検査キットの開発も進めています(▶P11)。この全世界が直面する未曾有の難局に対し、従業員とご家族の安全・健康を最優先に考えながら、当社の社会的責任を果たすべく今後も陣頭指揮を執ってまいります。

次期中期計画に向けて

当社では2015年度より開始した6年間の中期経営計画である「GOGO計画2020」を推進しています。

これまでの5年間で、社内カンパニー制の導入やメタローテクノロジーズインターナショナル社の買収ならびにシナジー創出などを進め、産業用事業における製販技のあらゆる面で効率化とグローバル展開を加速してきました。資産用事業では、お客様の利便性を高めた新しいネット積立口座「田中貴金属の純金積立」を開始しました。宝飾用事業では、田中貴金属を愛して下さるお客様の声にお応えし「金といえば田中貴金属=Back to the Gold」への原点回帰を打ち出しました。

2020年度は現中期計画の最終年度ですが、集大成ではなくさらに成長・発展するための通過点と捉えています。そこで一年前倒しで社長交代をはじめさまざまな変革を打ち出しており、2021年度からの次期中期計画へつなげます。

サステナビリティの追求

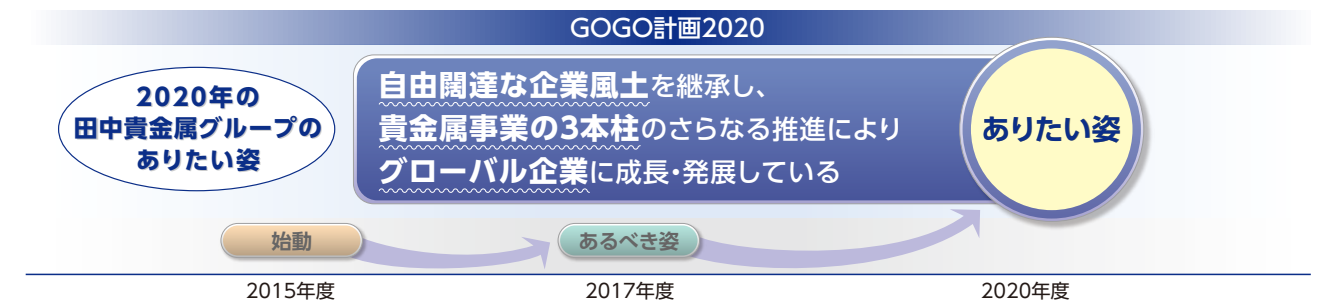
田中貴金属グループは、創業以来絶えることなく貴金属地金のリサイクルを継続してきました。今日では全従業員が「地金はお金」を合言葉に、生産設備内はもとより作業服等に付着した極微量の地金も丁寧に回収しています。これら地金リサイクルの活動を定量的に評価し、独自の環境指標として「地金フロー図」「資源生産性」「循環利用率」を構築しました(▶P06)。事業活動における直接材を1グラムも無駄にせず循環利用できることは、企業や社会のサステナビリティ(持続可能性)を追求する上で当社の大きな強みとなります。

また昨年発行した「CSR報告書2019」では、冊子を石灰石由来の「LIMEX(ライメックス)」で印刷しました。従業員が読み終えた冊子を廃棄せずに回収した上で再生利用するアップサイクルを実現しました(▶P08)。こちらは間接材であるCSR報告書の循環利用であり、今後も直接材・間接材を問わず事業活動のサステナビリティを追求してまいります。

200年企業、300年企業を目指して

現存する世界最古の国は日本です。私たちの先人は疫病や戦争、飢饉などさまざまな艱難辛苦を乗り越え、二千年以上にわたって一度も途切れることなく歴史や文化を積み重ね、国家として持続してきました。つまり、世界で最もサステナビリティを実践してきた国であると言えます。

一方、田中貴金属グループは1885年の創業以来、貴金属という魅力的な材料に創意工夫を重ねながら循環型ビジネスを確立し、2020年で創業135年を迎えました。一般的には2030年や2050年の長期目標を掲げる企業が多い中で、私は当社が創業200年を迎える2085年に向けた超長期構想を策定したいと考え、若手従業員による社長直轄のプロジェクトを立ち上げて自由闊達な議論を行っています。今年の秋頃に取りまとめ、来年度から始まる次期中期計画に反映させる予定です。今回策定する超長期構想を道標として、田中貴金属グループは200年、300年と社会的に有益な永続する企業を目指すとともに、引き続き「持続可能な社会」の実現に貢献してまいります。



TANAKAの事業

TANAKAは創業から130年以上にわたり、貴金属による特別な価値を世界へ届け続けてきました。これからも貴金属ができるすべてのことに取り組み、新しい領域を切り拓いていきます。

産業用

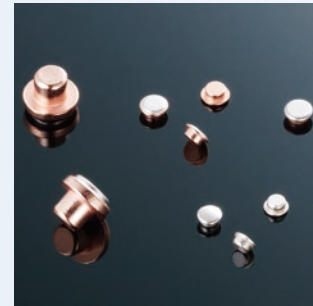
半導体・電子部品から車載、医療まで、幅広い事業分野においてお客様が抱える課題を解決する製品をお届けしています。“縁の下の力持ち”として、貴金属材料の安定供給を通じて産業全般を、そして社会の根幹を支えています。



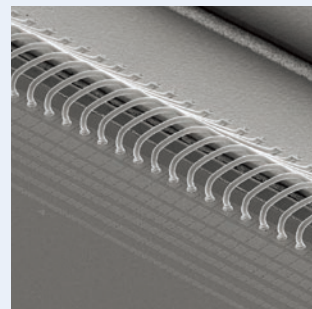
リサイクル



貴金属材料・素材



電気機能材料
(リレー・モーター・スイッチ)
エレクトロニクス機能材料



パッケージ・封止
半導体・電子部品



センサ材料



ガラス溶解装置・理化学品



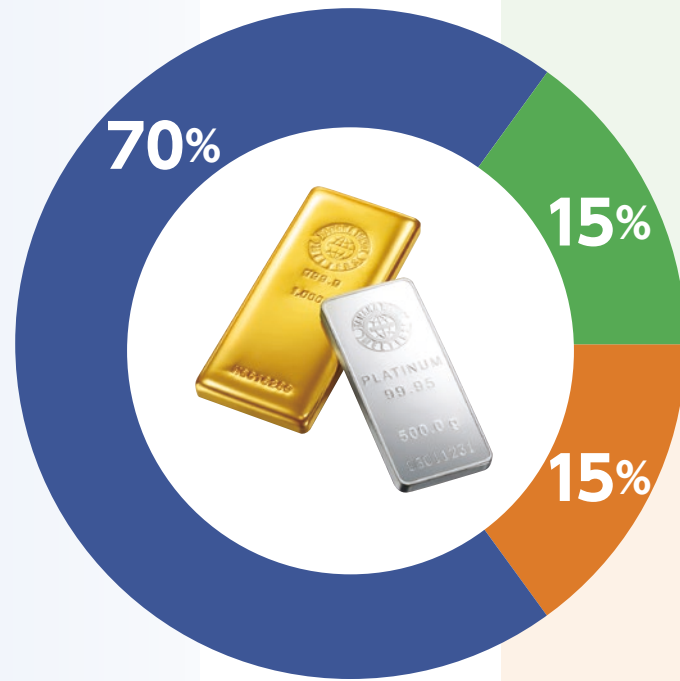
エネルギー・環境



メディカル



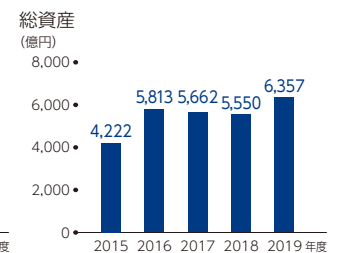
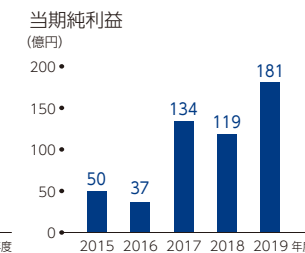
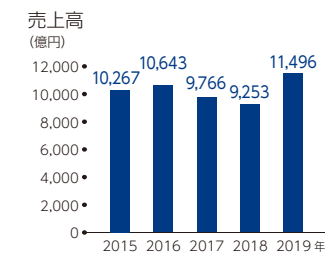
技術開発



田中貴金属グループ財務状況

業績要約

	2018年度	2019年度	前年度比
売上高	925,259	1,149,604	124.2%
当期純利益	11,851	18,113	152.8%
総資産	554,959	635,662	114.5%
自己資本比率	40.8%	37.7%	-



メタローテクノロジーズインターナショナル(株)含む

資産用

資産を最適に分散し保全するための金・プラチナ商品を提供しています。



地金・コイン

金は六千年の間、その価値を一度も失ったことがない唯一の存在であり、世界共通の資産です。当社の地金は世界最高水準の技術で作られており、金は9サイズ、プラチナは4サイズあり、ご予算に応じて選んでいただけます。当社はコインを発行する各国造幣局に認められた輸入販売総代理店です。金貨、プラチナ貨は美しいデザインで贈り物としても人気があります。

貴金属積立商品

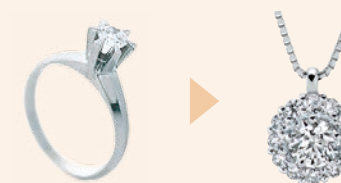
「田中貴金属の純金積立」は、1つの口座で月々3,000円から「金」「プラチナ」「銀」を購入することができる商品です。未来の安心に向けて着実に続けられます。

田中貴金属の純金積立



ジュエリー・工芸品

“田中貴金属”の歴史と伝統に培われた確かな品質をお客様にご提供しています。



リフォーム

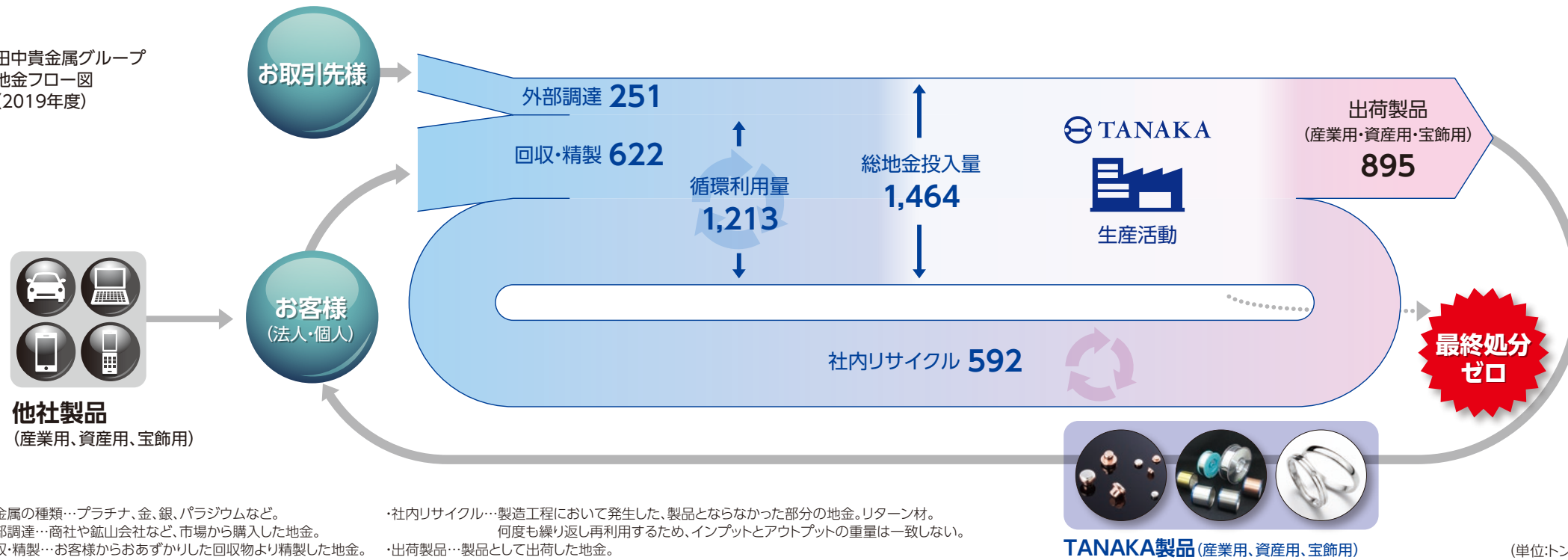
価値あるジュエリーを永くご愛用いただくために、「ダイヤモンド」「パール」を使用したジュエリーをお好みのデザインやアイテムにリフォームします。

宝飾用

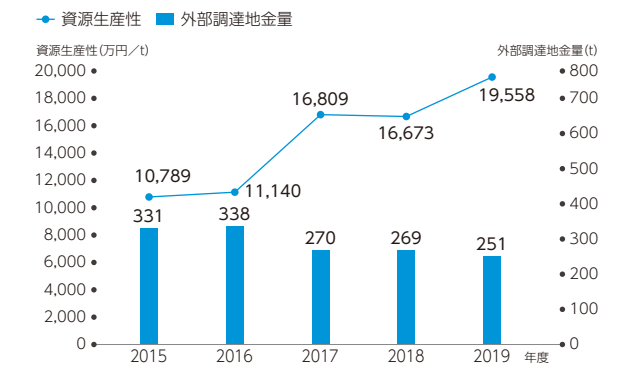
人生のさまざまなシーンを輝かせる宝飾品を、永く愛するにふさわしい確かな品質でお届けしています。

貴金属のリサイクル・ループによる資源生産性の追求

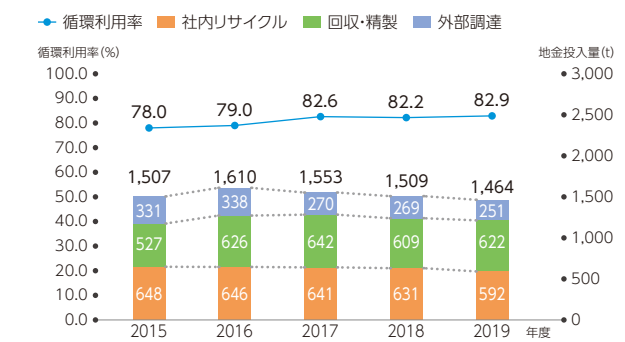
●田中貴金属グループ
地金フロー図
(2019年度)



●資源生産性



●循環利用率

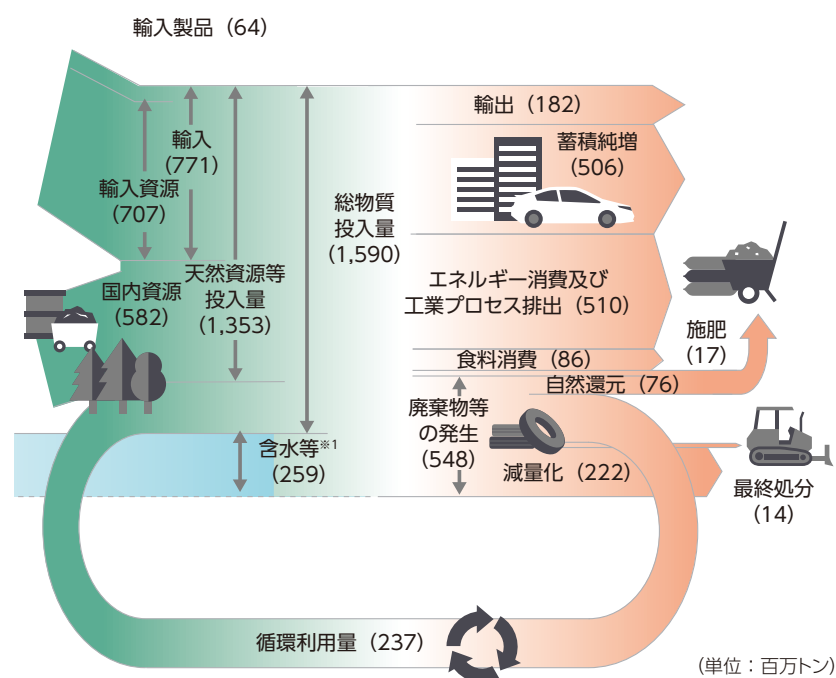


循環型社会の構築に向けた日本政府の動き

2003年3月に閣議決定された「循環型社会形成推進基本計画」において、日本全体の「物質フロー図」と、「資源生産性」「循環利用率」「最終処分量」の3つの指標が設定されました。

一方、2018年6月に「環境報告ガイドライン2018年版」が公表されました。今回の改訂では、物質フロー全体を網羅するのではなく、環境に与える重要な影響を事業者が自ら判断し開示するよう求められています。

●日本の物質フロー図 (2017年度)



出典:令和2年版循環型社会白書

独自の環境指標を策定

そこで、田中貴金属グループでは2018年度に独自の環境指標を策定しました。環境報告ガイドライン2018年版の改訂を受けて、事業活動が直接的に環境に与える重要な影響を「貴金属地金の投入量および循環利用量」と定義し、国の循環基本計画と合わせた地金フロー図と「資源生産性」「循環利用率」の2つの指標を構築しました。なお当社グループは、貴金属地金を1gも廃棄していませんので、国の「最終処分量」にあたる指標は立てていません。

	国の循環基本計画指標	田中貴金属グループ環境指標
①資源生産性	GDP/天然資源等投入量	売上総利益/外部調達量
②循環利用率	循環利用量/総物質投入量	循環利用量/総地金投入量
③最終処分量	埋め立て廃棄物量	—

「資源生産性」は、外部調達地金1トン当たりの利益であり、環境視点での「稼ぐ力」と言えます。「循環利用率」は、総地金投入量に占める自社でリサイクルした地金量であり、約8割で推移しています。2019年度は資源生産性、循環利用率ともに過去最高となりました。

今後、これらの環境指標を改善することで、循環型社会の構築とサーキュラーエコノミー*の実現に貢献します。

*循環型社会の実現と経済活動を両立させる概念。廃棄物や事業活動のムダから富を生み出すことが求められる。

LIMEXの活用によるCSR報告書の再資源化



LIMEXとは

LIMEX(ライメックス)は、地球上にほぼ無尽蔵に存在する石灰石を主原料とし、水と木材パルプを使用せずに紙やプラスチックの代替となる環境に配慮した新素材です。

「田中貴金属グループCSR報告書2020」では、1冊につき約19Lの水を守ることができます。



LIMEXを採用した背景

当社グループでは、全従業員に対して毎年CSR報告書を配付しており、同時にアンケートを行っています。近年のアンケート回収は2,000枚を超えています(P32参照)。

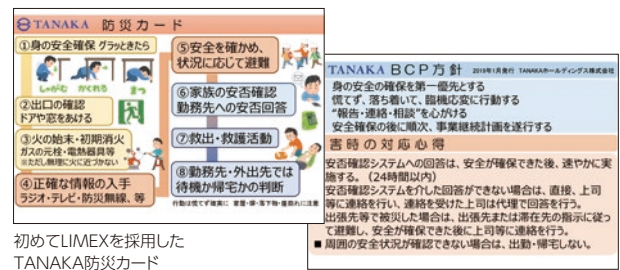
この従業員アンケートで毎年のように「CSR報告書の印刷は資源の無駄遣いではないか」「他社は紙の印刷からPDFのみにしている」などの意見が出ていました。ただ、印刷をやめてPDFのみの発行にした場合、CSR報告書を読む

従業員が減ってしまうのではないかとという事務局側の悩みがありました。

そこで、「CSR報告書2019」冊子版の印刷をLIMEXにして全従業員への配付を継続し、CSR報告書を読み終えて廃棄する従業員からは、冊子を回収してアップサイクルすることにしました。

LIMEXの採用実績とアップサイクルまでの経緯

2019年 1月	防災カードを作成し全従業員に配付
2019年 7月	CSR報告書2019を発行
2019年 9月	全従業員にアップサイクル品のアイデアを募集 かながわアップサイクルコンソーシアムに参加
2019年10月	CSR報告書1,187冊を回収し(株)TBM様へ送付
2019年11月	従業員のアイデアをもとにアップサイクル製品を(株)TBM様と検討
2020年 3月	アップサイクル製品完成、全従業員へ配付



アップサイクル品のアイデア募集

CSR報告書を回収して再利用するアップサイクル品のアイデアを従業員から募集しました。「身近な紙・プラスチック製品の代替」について募集した結果、全部で73件のアイデアが集まりました。

次に、LIMEXの開発元である(株)TBM様とアップサイクル品について検討しました。今回のCSR報告書の回収見込み重量、全従業員へ配付できる個数、制作可能な協力パートナー様、納期などのさまざまな条件を勘案した結果、73件のアイデアの中で2名の従業員から提案されていたコースターに決定しました。

CSR報告書の回収

続いて、読み終えたCSR報告書を10月の3R推進月間イベントの一環として回収しました。本社、工場、支店等でそれぞれ回収を行い、1,187冊を(株)TBM様に送付しました。



CSR報告書の再資源化

回収されたCSR報告書は、(株)TBM様の工場において破砕・ペレット化されました。



PARTNER'S VIEW

弊社は、2019年1月からTANAKAホールディングス様とさまざまな取り組みを進めてまいりました。今回、アップサイクルによるLIMEXコースターをご採用いただき、新たな資源循環を実現できたことを大変嬉しく思います。豊富に存在する石灰石を主原料とするLIMEXは、循環させていくことに真の価値があります。今後もLIMEXを通じて、TANAKAホールディングス様のCSR活動に貢献させていただき、共に循環型社会の実現に向けた取り組みを進めていければと思います。

株式会社TBM 営業本部 アカウントマネジャー 奥 利朗
株式会社TBM 営業本部 ニュービジネスデザイナー 岡澤 友広

コースター完成、全従業員へ配付

(株)湘南技研様の協力を得て2020年3月にコースター3,200個が完成し、全従業員に配付しました。



従業員からは、「CSR報告書から生まれ変わった製品を再利用できるのはとてもうれしい」「Made from TANAKA CSR REPORT 2019というロゴが入っているのでオリジナル感があって良い」「思ったよりもしっかりしていて使いやすい」などさまざまな反響をいただきました。

かながわアップサイクルコンソーシアムで事例紹介

2020年1月30日に開催された「かながわアップサイクルコンソーシアム※第2回定例会」において事例発表を行いました。LIMEXの「使用」「回収」「再利用」の3つのカテゴリを網羅する事例として、CSR報告書のアップサイクルをご紹介しました。

※ LIMEXのアップサイクルを通じた「持続可能な循環型まちづくり」を目指す産官の連携組織として2019年5月に発足。2020年1月時点で52団体が参加。

事例発表するCSR推進部藤枝一也

今後の展開

今回の「CSR報告書2020」もLIMEXで印刷しており、読み終えた冊子の回収ならびにアップサイクルを継続します。

田中貴金属グループは創業以来100年以上にわたって貴金属のリサイクルを実践してきました。このCSR報告書アップサイクルは本業である貴金属ビジネスとともに循環型社会の構築に資する重要テーマとして位置づけ、今後も強化してまいります。

研究開発

田中貴金属グループにとって、研究開発は価値創造の源泉です。広い視野をもって貴金属の可能性を追求し、より豊かな社会、そして美しい地球への扉を着実に開き続けています。

田中貴金属工業の燃料電池用触媒が2020年版「経済産業省認定グローバルニッチトップ企業」に選定

経済産業省認定グローバルニッチトップ企業は、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性が増している部素材等の事業を有する優良な企業を選定するものです。2020年版の素材・化学部門において、田中貴金属工業の燃料電池用触媒製品が認定を受けました。

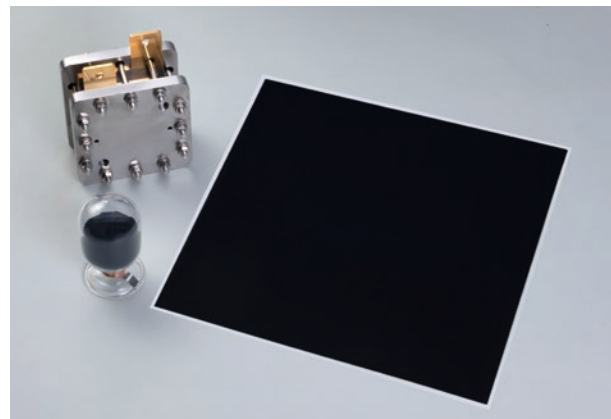
当社は、産学での連携を進めながら、固体高分子形燃料電池(PEFC型)の電極触媒において15年にわたり世界トップシェアを維持しています。2018年にはFC(燃料電池)触媒開発センターを増設し、燃料電池市場の拡大に伴う電極触媒の需要増に対応しています。



経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選」2020年度版プレスリリース
<https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200630002/20200630002.html>

固体高分子形水電解に使用される触媒付き電解質膜の大判評価用サンプル提供

田中貴金属工業では、再生可能エネルギーを用いて水を製造する際に期待される固体高分子形水電解に使用される触媒付き電解質膜「CCM(Catalyst Coated Membrane)」の大判評価用サンプルの提供を開始しました。設計要求に合わせて、塗工面1000×1000mmのサイズまで対応しています。これにより装置やインフラ設備メーカーにおける初期開発段階の大型テストが可能となり、技術開発期間の短縮にもつながります。本CCMの特性が開発段階のベンチマークとして使用されることで、より高効率を目指す固体高分子形水電解装置の開発に寄与しています。



感染症で使用されている簡易検査キットの開発

インフルエンザ検査や妊娠検査のほか、RSウイルスやノロウイルスなど、数多くの感染症で使われる「簡易検査キット」に「金」が使われています。

これらの検査キットは、どれも同じ「イムノクロマト法」という基礎原理が利用されています。このイムノクロマト法で利用されているのがナノメートル(nm)サイズになった「金コロイド」です。

当社は金コロイドの粒径をコントロールする技術が強みとしています。金コロイドの製造は、分子サイズの金化合物を原料として、粒径が数nm~150nmサイズの微粒子にまで「大きく成長させていく」仕組みです。

また、表面形状を変える技術もあります。金コロイドは通常、球状の形をしています。これを金平糖のような形に加工することもでき、形を変えることによって、金コロイドの色を青色などに変化させられます。この検査キット用途の青色金コロイドは、当社が世界で初めて開発に成功しています。コロイドの色の違いは、一度に複数項目を検査することを容易にし、患者や医療従事者の身体的負担を減らし、費用面でも貢献できると考えられています。



知的財産権の創出と保護

特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権等の知的財産権およびノウハウは、企業の重要な財産であるとの認識のもとに、積極的な創出に努めています。新技術の研究、製品・商品の開発、生産および販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。また、知的財産意識向上のため、技術部門を中心に年間を通して特許教育を実施しています。

知的財産に関する新型コロナウイルス感染症対策支援宣言

COVID対策支援宣言は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的とし、賛同者が国内外で保有する知的財産権を行使しない旨の宣言をするものです。当社は本宣言に則り、新型コロナウイルス感染症の早期終結に貢献してまいります。



TOPICS 新型コロナウイルス検査キットの開発

新型コロナウイルスの感染拡大防止に寄与すべく、当社では新型コロナウイルスの簡易検査キットの開発を進めています。



開発中の抗原検査キット

TOPICS インドに新拠点を開設

自動車用触媒や半導体、水素エネルギー市場における需要に対応するため、2019年12月23日にインドのムンバイに「田中貴金属(インド)株式会社」を設立しました。また、インドに拠点を構えることでインド・中東・アフリカ地域での営業戦略の強化を図ります。

田中貴金属(インド)株式会社が入るビルの外観



TANAKA NOW

知的財産部では入社2・3・4年目の技術者向けに知的財産概要、特許制度、特許出願明細書、特許検索、特許権侵害等に関する講習を実施を含めて行っています。また、営業部員向けの講習のほか、TKJや貴金属部向けに商標・意匠の講習も行っています。

知的財産は会社にとって大変貴重な財産です。他社製品との差別化を図りビジネスを優位に進めるための重要なツールです。

知的財産の知識、スキルを関係者にお伝えして、スマートに仕事が進められるよう支援を進めてまいります。

TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 知的財産部 栗原 健一

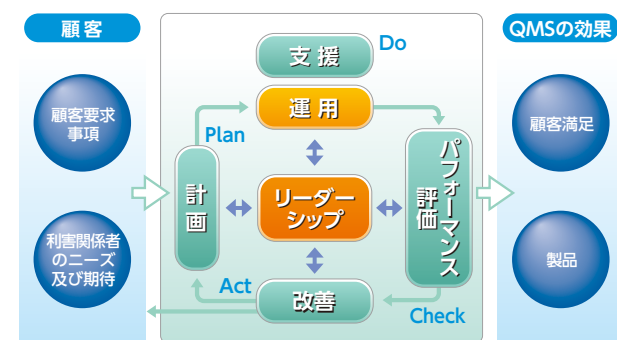
TANAKAの信頼

「良い物」をお客様にお届けすることが、田中貴金属グループの信条です。製品自体の品質はもちろん、製品をつくる過程で人権、環境、安全・衛生、倫理などにも配慮しています。

品質マネジメントシステムによる品質管理活動

田中貴金属グループの全工場、ISO9001に基づく品質マネジメントシステム(QMS)を構築し運用しています。お客様からの多様な要求品質に対して迅速に対応し、満足いただける安心で安全な製品を継続的に提供するため、QMSの有効性をレビューするとともに、自動車業界向けQMSであるIATF16949の要求事項を反映させるなど、システムの改善に取り組んでいます。

品質マネジメントシステムの体系図



顧客満足度調査

田中貴金属グループでは2016年度より「顧客満足度調査」を実施しています。本調査は、国内外のお客様より毎年アンケートにご回答いただくことで当社に対する真のご要望やご不満を把握し、さまざまな改善に役立てることを目的としています。アンケートの回答を数値化しており、2020年度までに平均80点となることを目指しています。

2019年度は173社(国内119社、海外54社)のお客様よりご回答をいただき、平均は76.4点(前年比+0.6点)でした。2016年度の開始時は61.2点でしたので、着実に向上しています。今後もお客様の満足度向上に向けてさまざまな改善を進めます。

お客様にご満足いただけるCSR外部評価

○RBA*1監査

田中貴金属グループでは、RBA行動規範に沿った「田中貴金属グループ行動憲章・行動規範」を策定し、役職員一人ひとりが日常業務の中で、人権、環境、安全・衛生、倫理などの社会的責任を果たすことを定めています。2019年度も、複数の国内外工場がRBA認定第三者機関による監査やお客様直接の監査により、RBA行動規範遵守状況の評価を受けました。

○ecovadis*2認証

ecovadisによる全社CSR評価(環境、労働と人権、倫理、サプライチェーン)を受け、2019年度もシルバー認証を継続取得しました。

*1 RBA (Responsible Business Alliance 責任ある企業同盟): 電子・電機業界のグローバル有力企業を中心に運営するCSR推進組織。企業が遵守すべきCSR規範を、具体的にRBA行動規範として定めている。
*2 ecovadis: 世界150か国190業種5万団体以上が登録しているCSR評価機関で、ゴールド、シルバー、ブロンズ、評価なしの4段階でCSR評価を実施している。

顧客からの評価

お客様の生産活動を支える田中貴金属グループの取り組みは、さまざまなお客様から表彰などの形で評価をいただいています。

【2019年度】お客様からの主な表彰

カンパニー	お客様名	受賞名	表彰を受けた理由
AuAg	パナソニック株式会社	奨励賞	新規接点材の開発を通して車載リレーの大幅な性能向上とコストダウンに貢献
化学回収	触媒工業協会	技術賞	疎水性貴金属触媒の適用範囲拡大に貢献
	FCDIC	産業貢献賞	燃料電池用触媒分野における産業界への貢献
	日本特殊陶業株式会社	【材料関連部門】優秀賞	総合的な評価(マネジメント、技術力、品質、コスト貢献、納期)
PGM	株式会社キャタラー	品質賞	不具合件数ゼロ件達成により品質に貢献
	Seagate	Best Partner Award	総合的な評価(技術・品質・ビジネス)
半導体	Toshiba Semiconductor (Thailand) Co.Ltd.	Excellent Supplier Award	優れた品質
	日月光半導體製造股份有限公司 ASE Group	2019 Outstanding Supplier	総合的な評価(技術サービス、価格、納期、品質)
	通富微電子股份有限公司	優秀サプライヤー賞	総合的な評価(技術サービス、価格、納期)
	紫光宏茂微电子(上海)有限公司 Unimos Microelectronics (Shanghai) Co.,Ltd.	PARTNER OF THE YEAR 2019	総合的な評価(品質、価格、納期)
新事業	応用物理学会	第7回 Exhibition Award 優秀賞	学会参加者による投票の結果
AP	ON Semiconductor	FE Perfect Quality Gold Award	優れた品質
	ON Semiconductor	BE Perfect Quality Award	総合的な評価(品質、価格、納期、サービス、環境)

サプライチェーン・マネジメント

○責任ある鉱物調達への取り組み

田中貴金属工業(株)では、「責任ある鉱物管理方針」を制定し、いわゆる紛争鉱物(金、タンタル、タングステン、すず)やコバルトなどの原材料鉱物の調達において、児童労働をはじめとする人権侵害、テロリストへの資金供与、マネーロンダリング、不正取引、紛争への加担、環境破壊などの排除を推進しています。

○LBMA*1およびLPPM*2レスポンシブル認証の取得

金、銀については、LBMAレスポンシブル・ゴールドおよびシルバーガイドンスに基づくデューデリジェンスを行い、指定第三者機関による監査を受け、毎年認証を取得しています。プラチナ、パラジウムについても、LPPMのガイドンスに基づく同様の監査を受け、2020年7月に認証を取得しています。



LBMA レスポンシブル・ゴールド認証 LBMA レスポンシブル・シルバー認証

「責任ある鉱物管理方針」

http://www.tanaka.co.jp/sourcing_policy/

*1 LBMA: ロンドン地金市場協会 *2 LPPM: ロンドン・プラチナ・パラジウム市場協会

○調達先様への働きかけ

主要な調達先様に対して「RBA行動規範」の遵守をお願いするとともに、CSRアンケート調査とそのフィードバックを継続しています。事業への影響が大きくリスクが高いと判断した調達先様には、訪問調査も行っています。2019年度は約200社に対してCSR調査を行い、重大な問題を特定した調達先様はありませんでした。

TOPICS 『ホシエス』マークが「商標登録継続記念証」を受領

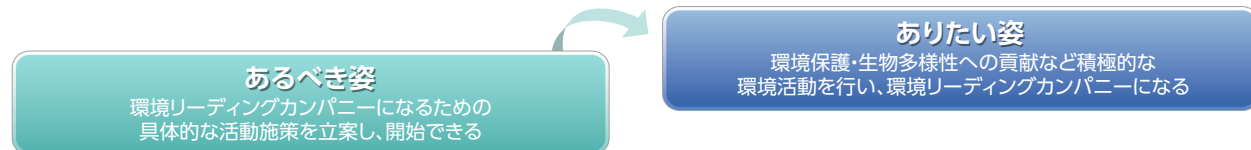
田中貴金属ジュエリー株式会社の『ホシエス』マークは、明治43年(1910年)に商標として登録されました。業界最高水準の厳しい品質基準をクリアしたギンザタナカの商品のすべてに「確かな品質の証」として打刻されています。その『ホシエス』マークに対し、特許庁より「商標登録継続記念証」が発行されました。これは、明治150周年記念事業として、明治(1912年7月30日以前)から継続している商標権に対して発行されたものです。



地球環境を守る

美しい地球を未来へ継承することは、国際社会共通の課題であり、大きな挑戦でもあります。田中貴金属グループは、事業活動による環境への負荷を最小化するために、あらゆる可能性を追求しています。

GOGO計画2020 ～環境～ “国内における環境リーディングカンパニーになる”



2015年度～2017年度 2018年度～2020年度
中期経営計画「GOGO計画2020」に基づくグループ全体の環境活動方針を策定し、2020年度の「ありたい姿」を「国内における環境リーディングカンパニーになる」としています。

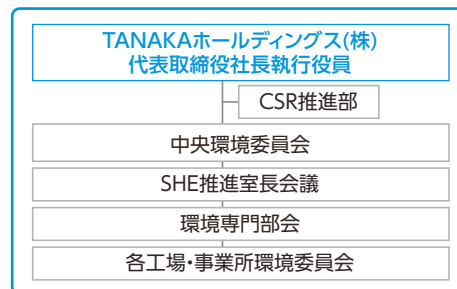
環境マネジメントシステム

国内全生産拠点で環境マネジメントシステム「ISO 14001」の認証を取得し、環境保全活動を実施しています。特に、CO₂排出量削減(地球温暖化の防止)、産業廃棄物排出量削減(循環型社会の形成)、環境異常撲滅活動(汚染の予防)については、グループ全体の目標を定め積極的に取り組んでいます。

環境保全活動を着実かつ円滑に推進するために、各工場・事業所長で構成される中央環境委員会を最上位としたグループ組織体制を構築しています。また、SHE*推進室長会議、環境管理者で構成される環境専門部会を定期的に開催し、情報共有および積極的な意見交換を重ねています。

*SHEは、「安全、衛生、環境」の略です。

●環境保全推進体制



●ISO14001認証取得事業所一覧

田中貴金属工業株式会社	
湘南工場	2000年 10月
市川工場	2002年 5月
テクニカルセンター	2002年 5月
平塚工場	2002年 10月
岩手工場	2005年 1月
伊勢原工場	2005年 3月
富岡工場	2005年 3月
筑波工場	2013年 12月
台湾田中貴金属工業股份有限公司	
	2010年 5月
田中先端有色金属材料(寧波)有限公司	
	2019年 1月
田中電子工業株式会社 佐賀本社工場	
	1999年 8月
田中エレクトロニクス・マレーシア	
	1999年 6月
田中エレクトロニクス・シンガポール	
	1999年 12月
田中電子(杭州)有限公司	
	2005年 2月
台湾田中電子股份有限公司	
	2013年 3月
日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社	
	2000年 11月

地球温暖化防止の取り組み

田中貴金属グループでは、省エネ法に準拠するためエネルギー原単位を毎年1%改善する目標を定めています。

エネルギー使用量は好調な事業環境を反映して2015年度より微増傾向でしたが、2019年度は新型コロナウイルス等の影響を受けて生産活動が減ったために前年度比1.2%減となりました。原単位は、2013年度比85.3%の目標に対して78.8%で達成しました。一方、CO₂排出量も着実に減少しています。

今後もさまざまな機器の効率化や運用改善等の省エネ活動を強化します。

○太陽光発電の導入

2020年1月より、田中貴金属工業(株)平塚工場で太陽光発電の稼働を開始しました。工場全体のエネルギー使用量に対して3%の削減効果を見込んでいます。

当社グループの太陽光発電導入事業所は5拠点となりました。



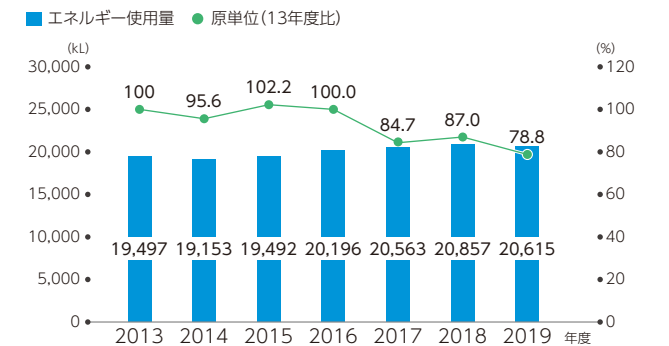
工場名	導入年度	エネルギー削減効果
田中電子工業(株)佐賀本社工場	2016年度	4%
田中貴金属工業(株)湘南工場	2016年度	1%
田中貴金属工業(株)伊勢原工場	2017年度	4%
田中貴金属工業(株)筑波事業所	2017年度	4%
田中貴金属工業(株)平塚工場	2019年度	3%

廃棄物削減の取り組み

田中貴金属グループでは、産業廃棄物排出量を基準年度(2011-13年度平均)比で毎年2%削減する目標を定めています。

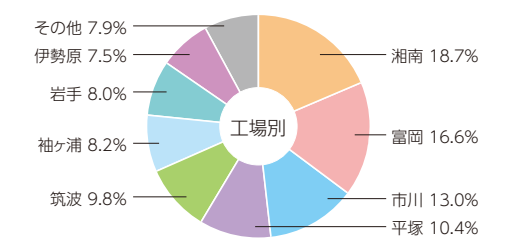
2019年度は基準年度比64%削減(3,620t)の目標に対して、実績は50%削減(5,080t)で未達となりました。FC触媒開発センター(神奈川県平塚市)と袖ヶ浦工場(千葉県袖ヶ浦市)の本格稼働のほか、環境異常発生によって排水処理が停止した時期に産業廃棄物として処分したことも影響しました。事業拡大に伴う廃棄物の発生を抑制できるよう、さらなる対策を進めます。

●エネルギー使用量、原単位の推移

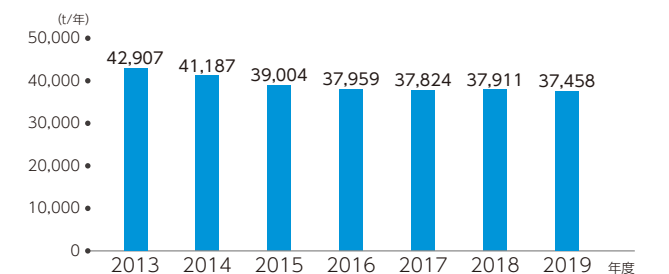


※エネルギーは電気、ガスなどを原油換算して算出。原単位は損益計算書の売上総利益を分母として算出。

●エネルギー使用量の内訳(2019年度)

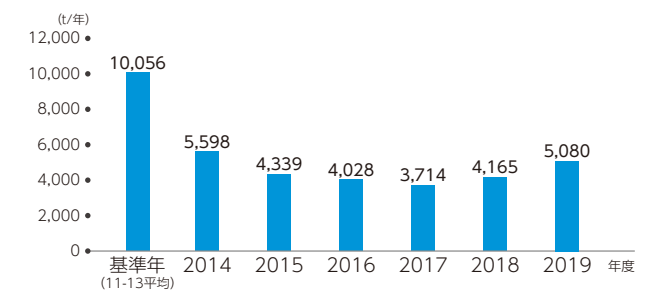


●CO₂排出量の推移

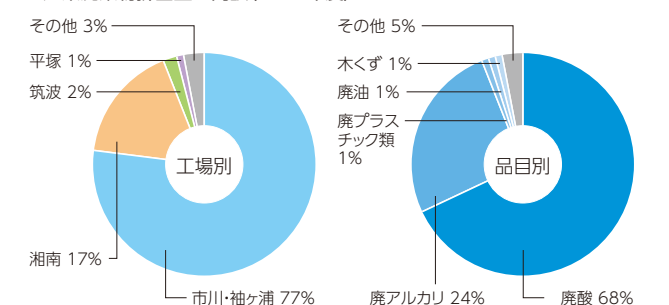


※各工場・事業所が立地する地域の電気事業者別CO₂排出係数を年度ごとに使用して算出。2019年度は2018年度と同じ係数を使用。

●産業廃棄物排出量の推移



●産業廃棄物排出量の内訳(2019年度)



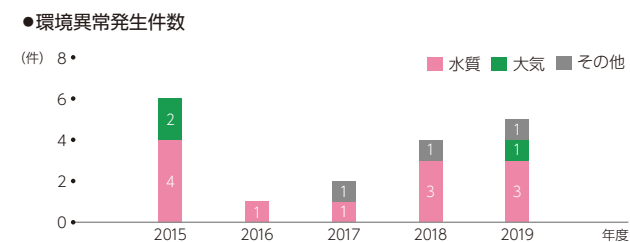
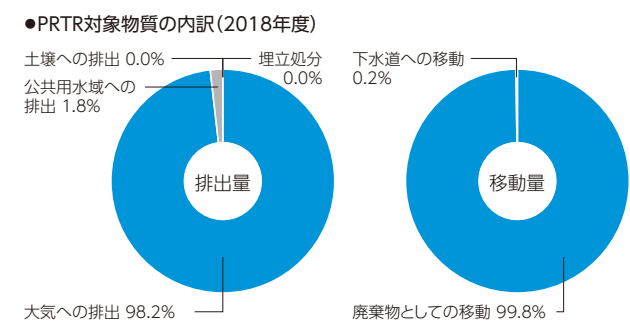
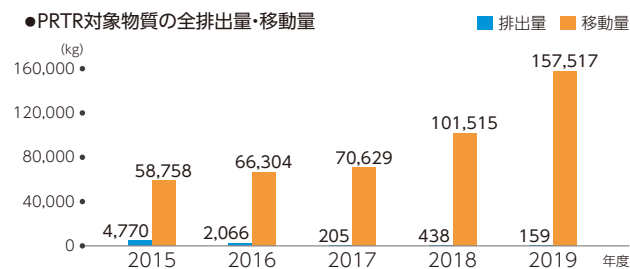
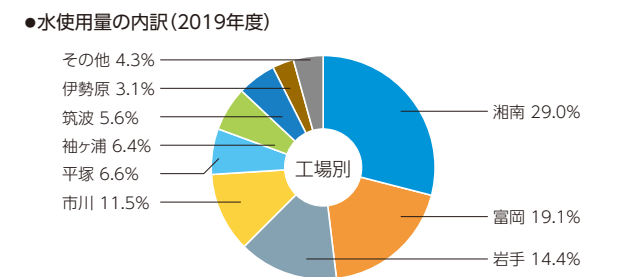
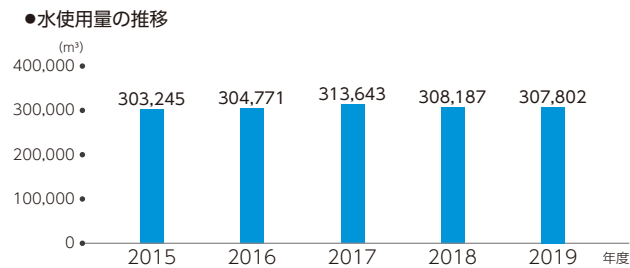
地球環境を守る

水使用量の削減

世界的に水不足への懸念が高まっており、事業活動における水使用量の削減に努めています。

グループ全体の水使用量としては、2017年度をピークに減少傾向が続いています。使用量を工場別にみると、湘南工場、富岡工場で全体の約半分を占めています。

今後も排水処理による自工場内での水リサイクルやプロセス改善などにより、水資源の有効活用に努めます。



環境汚染の防止

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR*法)」に基づく対象物質について、環境への排出量および事業所外への移動量を国に届け出しています。

2019年度のグループ全体の排出量は159kgでした。大気への排出が多く、土壌への排出や埋立処分はありませんでした。

今後も環境汚染を防止するため、事業活動における化学物質の適切な管理に努めます。

* PRTR Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)

環境異常撲滅活動

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などを未然に防止するため、法規制よりもさらに厳しい社内管理値を設定しています。特に、大気および水質などについては、原則として法規制値などの2分の1を社内管理値としています。

「環境異常 (社内管理値超過など)」発生時には迅速に対応するとともに、原因の把握と再発防止に努めています。社内では「環境異常速報」による情報伝達を、関係行政当局へは「通報・届出基準」に基づく報告を行っています。2019年度は、環境異常が5件発生しましたが、即時、対策を実施し再発防止に努めています。

主な社内ルール

項目	内容	設置年
通常管理	自主基準値管理 法基準の2分の1を自主基準値として設定	1974年
異常対応	環境異常速報 異常事態が発生した際の早期情報伝達 (原因分析と対策は中央環境委員会で確認)	2002年
	通報・届出基準 異常発生時における関係行政への通報・届出に関する基準	2004年

*環境異常の定義：法規制違反、自主基準値オーバー、近隣クレーム、場内で収まった軽微な事故等

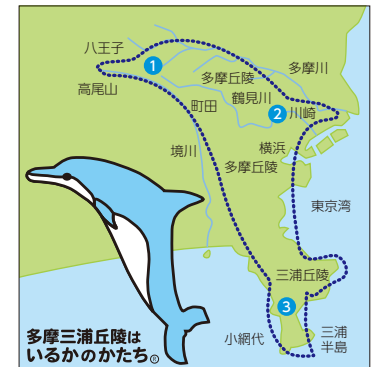
生物多様性保全

田中貴金属グループでは、2019年度より生物多様性保全の取り組みとして、NPO法人鶴見川流域ネットワーク (神奈川県横浜市、岸由二代表) との連携を開始しました。同NPOが2019年4月より開始した「多自然川づくり 花さくいるか丘陵プロジェクト」を支援しています。いるか丘陵とは、高尾山の東方から町田、川崎、横浜、横須賀、三浦半島までの多摩三浦丘陵地帯が「いるか」の形に似ていることから岸代表が名付けました。

同プロジェクトでは、花粉症の原因となる外来種の「ネズミホソムギ」等に覆われて除草などの定期的な作業が必要な場所に、代替可能でかつ軽度な管理で維持できる魅力的な在来植物 (ハナウド、ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ハマカンゾウなど) を転植し、安全で生物多様性豊かな多自然ビオトープを創出することを目指しています。ハナウドは4~5月、カンゾウ類は、7月から9月にかけて美しい花を咲かせるとともに、ハナウドはキアゲハの幼虫を育て、カンゾウ類の花にはジャコウアゲハなどのさまざまなアゲハ類が訪れて吸蜜します。

当社では、いるか丘陵の3か所で本プロジェクトを支援しています。

場所	実施内容	今後の計画
1 鶴見川源流丸池 (東京都町田市)	2020年3月にヤブカンゾウ500株を移植	2021年:1千株 2023年:4千株
2 網島バラ島 (神奈川県横浜市)	2019年11月にノカンゾウ500株を移植	2021年:2千株 2023年:1万株
3 小網代臨海地B区 (神奈川県三浦市)	2020年3月にハマカンゾウ200株を移植	2021年:5百株 2023年:2千株

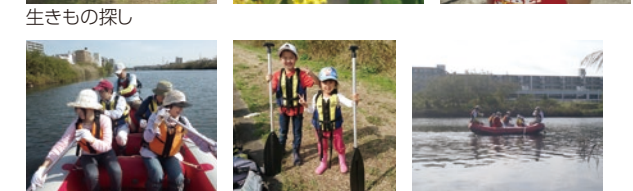


網島バラ島でのノカンゾウ移植

2019年11月2日、鶴見川の網島バラ島でノカンゾウ500株を移植しました。当日はNPOスタッフに加えて、当社従業員およびご家族11名も参加しました。



ノカンゾウの移植作業のほか、生きもの探しやボート体験も行いました。



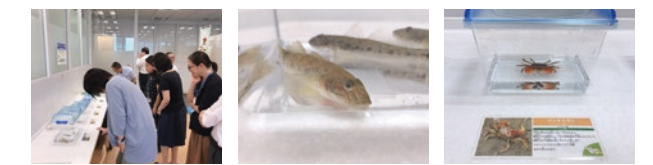
当日の様様を動画で公開しています。



<https://www.tanaka.co.jp/about/csr/>

エコカフェ開催

2019年9月18日、東京ビル本社でエコカフェを開催しました。当日はオフィスビルにミニ水族館を設置し、多くの従業員が鶴見川の生きものとふれあいました。



また、「多自然川づくり 花さくいるか丘陵プロジェクト」について岸代表にご講演いただくとともに、自然の大地に由来する「流域住所」を作成するワークショップを行うなど、生物多様性から防災まで深く考える機会となりました。



岸代表による講演 ワークショップには田苗社長 (当時) も参加

くしくも、3週間後の10月12日に関東を直撃した台風19号は大きな被害をもたらしましたが、ワークショップの参加者からは「流域住所をつくっていたので冷静に対処できた」「決壊した河川の情報はなく、自宅が位置する流域の河川を自治体のライブカメラで見れていた」などの感想が寄せられました。

地域・社会への貢献

田中貴金属グループは、事業活動を通じてご縁が生まれる地域や国がより健やかで豊かになるように、自らができる貢献を目指しています。会社としての支援、従業員によるボランティアの両面から、継続性を大切にする活動を各地で展開しています。

スポーツ振興

東京2020オフィシャルサポーター

TANAKAホールディングス(株)は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と東京2020スポンサーシッププログラムの「貴金属・宝飾品」カテゴリーにおける「東京2020オフィシャルサポーター」契約を締結しています。



TOPICS 「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」への参画

田中貴金属工業は、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催する本プロジェクトに、事業協力者である(株)NTTDコムおよび(一財)日本環境衛生センター経由で参画しました。このプロジェクトはリサイクルの定着ならびに持続可能な社会の実現に向けて、アスリートに授与される入賞メダルを、使用済み携帯電話等の小型家電から金属を集めて製作するものです。当社はメダル製作工程の「貴金属リサイクル」を担当し、主に金・銀の精製を行いました。

本プロジェクトでは、2017年4月から2年間でオリンピック・パラリンピックの金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルに必要な金属量が回収されています。本プロジェクトを通して、限りある資源である貴金属の循環利用がさらに進んでいくことを期待しています。



精製の流れ
①特殊な溶液を投入することにより溶解し、還元反応によって金を抽出 ②抽出した溶液をろ過・乾燥させ粉末状にする(金粉末) ③金粉末を高温で溶かし、冷水に流すことで金を粒状(ささびき)にする

東京都スポーツ推進企業・スポーツエールカンパニーの認定

TANAKAホールディングス株式会社は、各種スポーツ大会への協賛のほか、従業員参加による健康促進大会や社員研修でのボッチャ体験などで、スポーツを通じた従業員同士の交流や健康づくりを推進しています。

また、2012年に日本障がい者スポーツ協会(JPSA)のオフィシャルパートナーとなり、2017年からは日本ブラインドサッカー協会(JBFA)とブラインドサッカー女子日本代表への協賛も開始しています。このような活動が評価され、2015年度より5年連続で東京都より「東京都スポーツ推進企業」に、2017年度より3年連続でスポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」に、それぞれ認定されています。



障がい者スポーツへの支援・参加

田中貴金属は日本障がい者スポーツ協会主催のジャパンパラ競技大会やブラインドサッカー国内・国際大会への応援観戦・ボランティア活動を行っています。国内拠点での障がい者スポーツ体験や社内運動会での障がい者スポーツ体験も実施しています。2019年度の社内運動会では、日本ブラインドマラソン協会の協力のもと、相手のそばに寄り添い、走路の確保、進行方向を伝えながら一緒に歩く「伴歩」の体験を行いました。また、新しい取り組みとして、当社の拠点が所在する平塚市との共催で、ブラインドサッカー体験イベント「パラスポーツパーク!~ブラインドサッカー体験会~」を開催しました。今後も障がい者スポーツ大会の応援観戦やボランティア活動への参加などさまざまな機会を通して、障がい者スポーツの理解促進につながる活動を進めていきます。



人財育成

田中貴金属記念財団

○貴金属に関する研究助成金

本制度は、貴金属が貢献する新しい技術や研究・開発を支援するため、1999年度から毎年実施しています。21回目となる今回は、合計198件の応募があり、26件の研究に対し総額1,610万円の研究助成金を給付しました。

「世界のE-waste(電子ゴミ)から貴金属資源化産業を生むリサイクル技術の創出」

ゴールド賞 200万円 大阪府立大学 教授* 小西 康裕 様

「ミステリアスな金の表面を分子レベルで解明する」

ゴールド賞 200万円 高知大学 准教授 山田 和彦 様

*役職は2020年3月31日時点のものです。

○奨学金制度

2018年度より学術、技術ならびに社会経済の発展に寄与することを目的にスタートしました。2019年度も東北大学の理工系学部と理工系研究科の3名の学生を対象に給付しました。今後も、奨学生の皆様とのつながりを大切にしていきたいです。

○東日本大震災復興支援

東日本大震災の東北復興支援ボランティアとして2013年度に開始した「愛の絆 桜の植樹135」は7年目を迎えました。桜の植樹の目標であった135本を達成した2018年度からは活動を発展させ、「ダブル支援」(桜を守る基金による寄付+被災地の生産者を支援する物産展)を行っています。

2019年度の物産展は取扱商品を増やすとともに、対象事業所も田中貴金属グループ全体に拡大し、支援の輪が広がりました。



「高専ロボコン」協賛

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)は、高専の学生たちが既成概念にとらわれず「自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことでモノ造りの面白さを体験するイベントです。全国57校62キャンパスの高専生が8地区で予選を戦い、勝ち残った25チームが東京での全国大会に進みます。

田中貴金属グループは、若き技術者のモノ造りを応援するために、2012年から「高専ロボコン」に協賛しています。



主な活動

- 寄付・募金活動** 人安基金からサツマイモを購入しシングルマザーを助ける活動に参加しました。台湾田中電子股份有限公司 2020年1月~3月
- スポーツ振興活動** ペナンブリッジ国際マラソン大会の給水所のボランティアを行いました。田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd. 参加人数:26名 2019年11月
- 人財育成・文化芸術の発展** 東京藝術大学 美術学部 工芸科 教授の前田 宏智 氏を講師にお招きし、貴金属をテーマにした銀のオリジナルスプーンをつくるワークショップを開催しました。TANAKAホールディングス(株) 参加人数:59名 2019年8月
- 地域清掃活動** 各工場・事業所では工場および周辺などの清掃活動を定期的に行っています。田中貴金属工業(株)各工場・事業所、田中電子工業(株)佐賀本社工場、日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ(株)平塚事業所、田中貴金属ジュエリー(株)銀座本店、田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd.、田中電子(杭州)有限公司



その他の活動はホームページから <https://www.tanaka.co.jp/about/csr/communication.html>

一人ひとりの活躍

多様性を増す従業員の一人ひとりが輝ける職場環境づくりは、田中貴金属グループの将来にとって欠かせません。多様な従業員が活躍できるよう、さまざまな切り口から職場環境の整備に取り組んでいます。

働き方・休み方改革と多様な従業員の活躍

田中貴金属グループでは、多様な従業員がそれぞれ生き生きと働ける職場環境づくりを目指しています。その一環として、働き方や休み方の見直しと改善に、複合的なアプローチで取り組んでいます。

年次有給休暇

2019年4月から施行された「働き方改革関連法」における「年次有給休暇5日以上取得」を2018年度からグループ全体で推進しています。2019年度の達成率は100%となりました。

国内	2018	2019
年次有給休暇(5日以上)取得率	91.1%	100%
年次有給休暇平均取得日数	11.5日	12.9日
(製造部門)	11.9日	12.2日
(間接部門)	13.2日	14.5日
平均残業時間	10.37時間	14.34時間
平均勤続年数 男性	13.3年	13.8年
平均勤続年数 女性	11.4年	12.1年
介護休暇	1名	1名
介護短時間勤務	1名	1名

介護と仕事の両立支援

従業員が介護と仕事を両立できる職場環境の整備のため、さまざまな取り組みを実施しています。

1. 法定を超える制度

- 【介護休業】
要介護状態にある家族1人につき365日取得可能です。
- 【介護短時間勤務】
勤務時間は原則6時間、本人の希望により5時間まで短縮可能です。

2. 相談窓口の設置

社内外に相談窓口を設置し、介護に関する従業員の相談に対応しています。

3. 従業員への情報提供

従業員が介護に直面する前から介護に関する情報を得られるよう、年齢別研修での冊子の配付や社内イントラネットでの情報提供を実施しています。



TOPICS くるみん認定取得(田中貴金属グループ4社)

「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣から認定を受けました。次世代育成支援対策推進法に基づき、行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し一定の基準を満たした企業が認定されます。引き続き、くるみん認定継続に向けて取り組んでいきます。

認定会社：TANAKAホールディングス株式会社 / 田中電子工業株式会社 / 日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社 / 田中貴金属ジュエリー株式会社
田中貴金属工業株式会社は、現在認定に向けて取り組んでいます。



子育てと仕事の両立支援

従業員が子育てと仕事を両立できる職場環境を整備するため、法令で定められている以上にさまざまな取り組みを行っています。今後も働き方改革とワークライフバランスの観点から、従業員の子育てと仕事の両立支援に取り組めます。

1. 法定を超える制度

- 【配偶者出産時の特別有給休暇】
配偶者が出産した場合、入院・退院・届出に充てるため、特別有給休暇を3日間取得することが可能です。

【育児休業】

原則1歳6ヶ月(条件を満たした場合は最長2歳)まで取得可能です。

【育児短時間勤務】

小学2年生の4月15日まで適用可能です。
勤務時間は原則6時間、本人の希望により5時間まで短縮可能です。

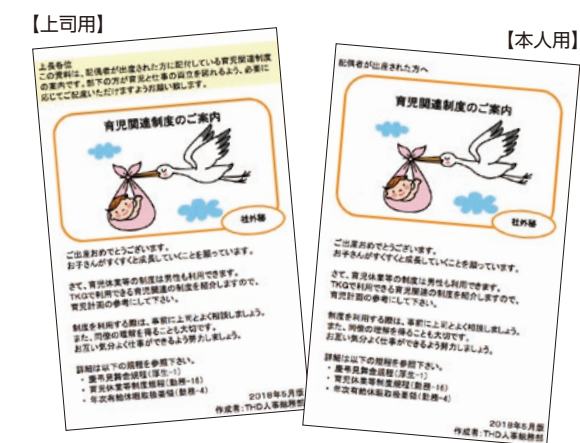
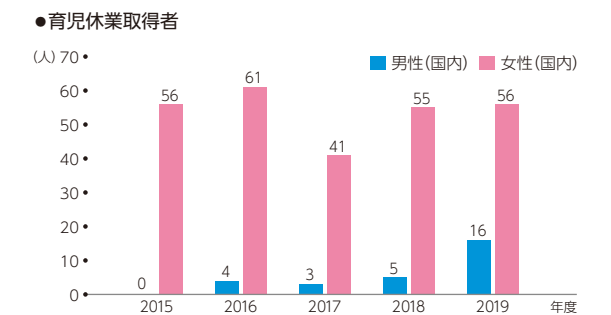
【子の看護休暇】

小学2年生の4月15日まで取得可能です。



2. 男性の育児休業等取得促進

配偶者が出産した従業員とその上司へのリーフレット配付や、役職者研修での冊子の配付を通じて、育児に関連する会社制度の周知および制度を利用しやすい雰囲気づくりに取り組んでいます。男性の育児休業取得者は2016年度以降増加傾向となっています。2019年度には過去最多の16人が育児休業を取得するなど、取り組みの成果が少しずつ表れています。今後も従業員の子育てと仕事の両立支援に向けた取り組みを拡充します。



上司用リーフレットには、本人の希望に応じた制度利用を促す記載があります。



2人目が産まれた時に妻が実家から戻ってきたタイミングで1ヶ月の育児休業を取得しました。1人目の子どももまだ小さく、2人の子どもの育児の負担を少しでも軽くできればいいと思ったのですが、慣れない育児に悪戦苦闘しました。育児の大変さが身にしみたとともに今しかない子どもの成長を見ることができ、貴重な経験となりました。育休を取ることで家族と過ごす時間が増えて、復帰後は家族のために仕事を益々頑張ろうと思うようになりました。

田中貴金属工業株式会社 事業管理統括部 生産技術部 リーダー 千蒲 悠平

一人ひとりの活躍

障がい者雇用

障がい者雇用を強化するために、障がい者採用イベントへの定期的な参加のほか、各工場・事業所では地域の養護学校から職業実習の受け入れを積極的に行っています。また、採用した方には職場適用援助制度（ジョブコーチ制度）を活用して就労の定着を図っています。

グローバル採用

グローバル化に向けて、外国籍従業員の採用も行っています。採用後、日本での生活に早く慣れるよう、来日の際の送迎や、日本での事務手続きなど、生活に関するさまざまな支援を行っています。また、会社指定語学研修制度があり、日本語教育を受講することができます。

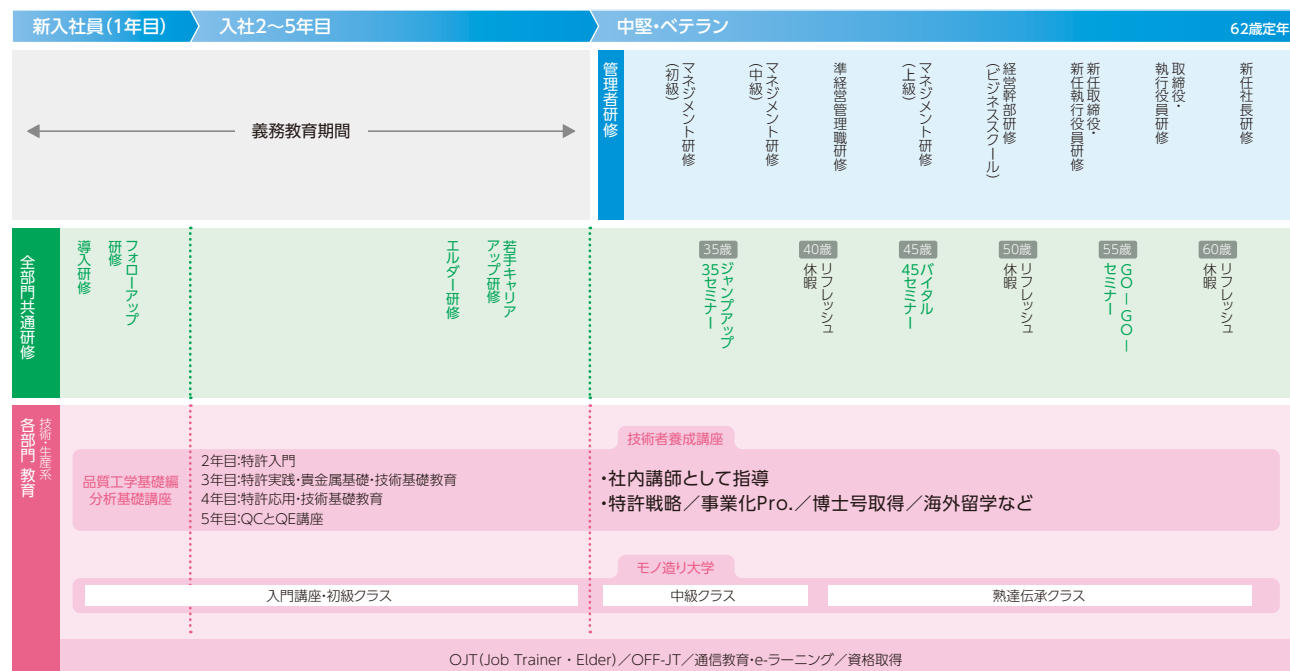
定年退職者の再雇用

高年齢者雇用安定法に基づき、62歳の定年を迎えた従業員が引き続き勤務を希望した場合、継続して勤務することができます。再雇用契約の期間は原則1年間とし、会社と従業員の双方の合意によって契約を更新します。再雇用の限度年齢は原則65歳としています。

人材育成

田中貴金属グループでは、従業員一人ひとりの成長が組織全体の活性化につながるよう、新入社員から役職者まで体系的な教育プログラムに沿って計画的な人材育成を行っています。全部門共通研修である「ジャンプアップ35セミナー」「バイタル45セミナー」はこれまでの自身のキャリアを振り返るとともに、今後の目標を策定することでさらなる飛躍・活躍を目指す研修です。同時に当社グループの同年齢の従業員が一堂に会することから新卒入社・中途入社にかかわらず横のつながりを醸成できる場でもあり、お互いに刺激し合うよい機会になります。また、貴金属の知識や技術向上のための「貴金属基礎・技術基礎教育」や「QCとQE講座」も開講しています。

●教育プログラム



メンタルヘルス

従業員の心の健康管理を重要事項と捉え、人間関係を含む職場環境改善を進めるとともに、メンタル不調者の早期発見等幅広い取り組みを行っています。

○相談窓口

主な事業所の健康管理室に看護職が常駐しており、従業員は心身の健康相談ができます。また、電話やメールによる相談窓口を外部に設置し、従業員とその家族も利用することができます。従業員が個別に面談やカウンセリングを受けることも可能です。

○ストレスチェック

2016年度より全従業員を対象にストレスチェックを実施しています。従業員が自身の心の状態を確認するとともに、集団分析によって職場ごとに健康総合リスク評価を行い職場環境の改善につなげています。具体的には、職場のコミュニケーション向上を目的としたアサーション実践プログラムを実施しています。

CSR通信

CSR活動の社内コミュニケーションツールとして2012年4月よりCSR通信を毎日発行しています。2020年7月には1900号を超えました。ISO26000の中核主題に沿った「組織統治」「人権」「環境」「労働慣行」「コミュニティへの参画」などのテーマごとにCSR推進部の担当者が分担して作成しています。CSR推進部から各工場・事業所の各部門に毎日メール配信し、各部門では職場の掲示板や食堂などに掲示しています。2018年にはCSR活動の啓発教育などへ利用できるように、発行済みのCSR通信から抜粋して1冊にまとめたCSR通信活用ブックを作製し、各部門へ配付しました。100号ごとにデータ更新を行い、1000号ごとに冊子の追加・更新を行います。



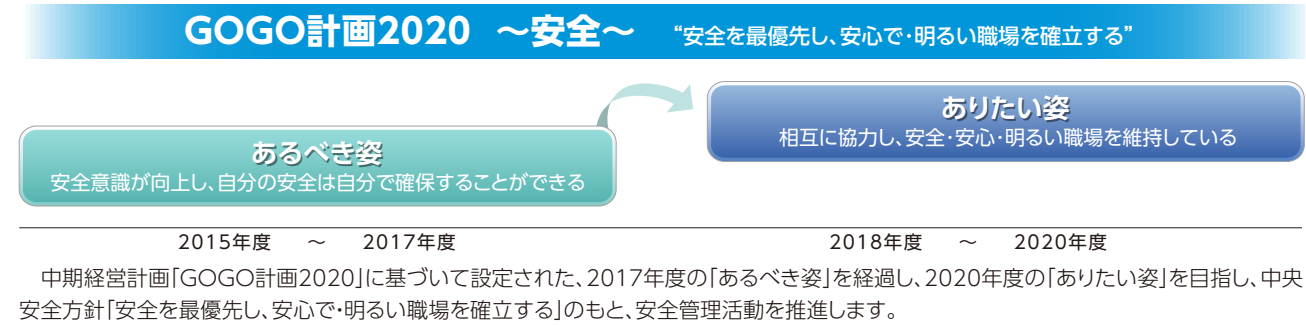
TANAKA NOW

「半年もったら合格かな。」当時の社長の言葉に思わず「なにくそっ!」と、もちろん心の中で叫んだ。やるからには続ける。とにかく、まず10年。「やるからにはきちんと形を整えてやろう。」これは当時の部長。まずはフォーマット、書式から。書式デザインの作成を広報・広告部をお願いした。誰が、どうやって作るのか。毎日交代で担当を決めてパワーポイントのスライド1枚を作成する。CSR推進部って何やってるの?そもそもCSRって、何?そんなところを出発点に、CSRとは、CSR推進部にはどんな人がいて、どんな仕事をしているのか。安全、環境、コミュニティ、組織統治、ISO26000の中核主題をまさに仕事の中核に据えていることから話題のどっかかりを探し出した。そして今、CSR=企業の社会的責任、事業継続、これは何か特別なことをするのではなく、企業活動のすべて、モノ造りから、間接業務まで日々の活動そのものが、見方を変えればCSR活動なのではないだろうか。そんな思いに至っている。創刊から8年、1900号を経過して、あれから10年が見え始めている。まさにコツコツと続けてきた到達点であり、きっと経過点でもある。これからもCSR通信をよろしく願います。

TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部 山本 信夫

より安全な職場環境づくり

安全で、安心して働ける職場環境づくりは、企業にとって最も重要な、かつ奥深い課題です。田中貴金属グループは、お互いに協力できる関係づくりを大切にしながら、従業員の安全と健康の確保に取り組んでいます。



安全活動全般の振り返り

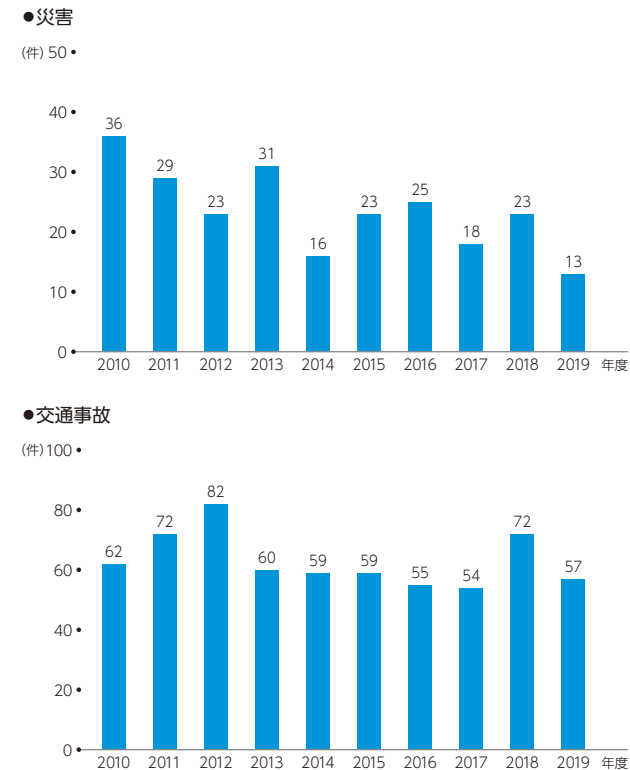
2020年度のありたい姿「相互に協力し、安全・安心・明るい職場を維持している」に向けて、年度方針「安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する」のもと、各工場・事業所では安全管理者を中心に日々安全活動を行っています。また、2015年度より毎年中央労働災害防止協会による安全診断を受け、主に不安全状態の低減に努めてきました。

2019年度も、前年度に引き続き各工場・事業所ごとに「挟まれ・巻き込まれ」「薬傷・火傷」等の重点実施テーマを定め、安全対策重点実施活動を行いました。

2019年度の労働災害発生件数は13件と過去10年間で最少となりました。今後も残存リスクの洗い出しと対策実施を緩めることなく進めます。

一方、交通事故発生件数は57件でした。過去10年間は60件前後で推移しており、追突による被害事故が多く発生しています。

GOGO計画2020の最終年度である2020年度も安全管理活動を強化し、より安全な職場環境を目指します。



TANAKA NOW

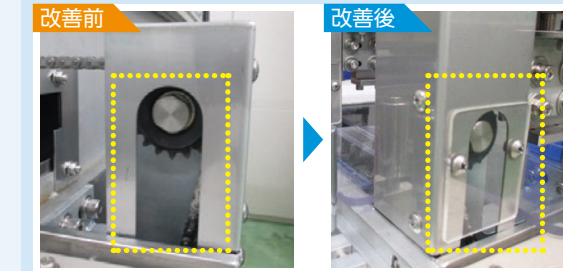
災害ゼロ継続を目指して、不安全状態（機械・設備、材料など）の改善に留まらず、不安全行動の要因となる人の意識や行動・動作に着目した安全重点施策として、1回/週の頻度で安全キャンペーン活動を展開しています。災害や重大ヒヤリハットおよび日常のヒヤリハット報告から選び出した啓発テーマを安全行動スローガンとして掲げて、毎朝各職場全員で指差唱和します。安全は受け身では駄目です！一人ひとりが危険に対する感受性（意識）を高めて、積極的かつ前向きな行動で対応（危険回避）できる必要があります。楽しくもあり、飽きさせないようにアイデア・工夫を凝らし、作業者の心に響かせるよう役職者と共に全員参加の活動をさらに大きく展開して、今後も災害ゼロの継続を目指します。

田中貴金属工業株式会社 AuAgカンパニー 平塚工場 安全管理者 清田 一義

安全対策重点実施活動の事例紹介

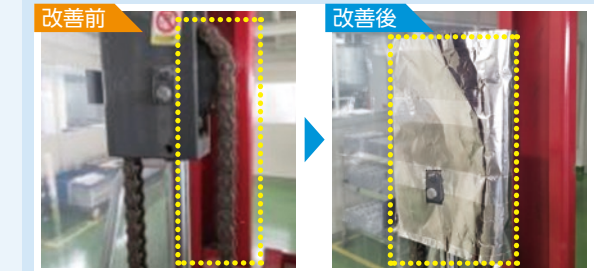
事例 1 挟まれ・巻き込まれ

AuAgカンパニー平塚工場



改善前 改善後
ギヤ開口部で挟まれ・巻き込まれの危険があったため、カバーを設置し手指が入る隙間をなくした。

PGMカンパニー筑波事業所



改善前 改善後
露出したチェーン等に挟まれ・巻き込まれの危険があったため、カバーを設置し手指が入る隙間をなくした。

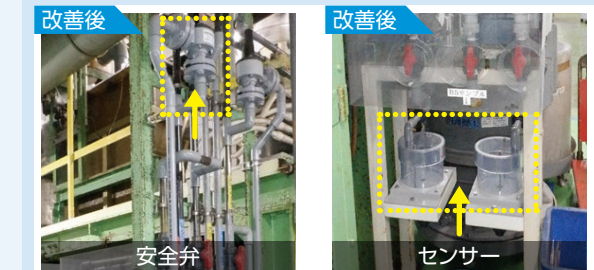
事例 2 薬傷・火傷

PGMカンパニー伊勢原工場



改善前 改善後
露出した電気炉の炉体で火傷の危険があったため、耐熱カーテンと安全柵で覆って人体と高温部の接触をなくした。

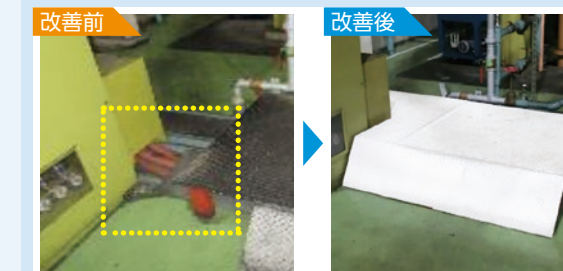
化学回収カンパニー湘南工場



改善前 改善後
内圧上昇で液が飛散し薬傷の危険があったため、安全弁とセンサーを設置し、圧力異常時にセンサーにより定量ポンプを停止できるようにした。

事例 3 転倒

AuAgカンパニー富岡工場



改善前 改善後
配管上の足場に隙間があり転倒の危険があったため、足が入る隙間をなくした。

新事業カンパニー伊勢原テクニカルセンター



改善前 改善後
階段での荷物運搬は足元の見通しが悪く転倒の危険があったため、荷物専用エレベータを設置した。



より安全な職場環境づくり

CSRマネジメント

健康宣言の取り組み

田中貴金属グループでは、従業員とご家族の健康を第一に考え、疾病の予防と健康の保持・増進を進めています。

取り組み方針

- (1) 会社は、社員の健康を重要な経営の原動力と考え、安全と健康を最優先する組織文化の醸成を図っていきます。
- (2) 会社は、社員が "元気で、明るく、前向きに" 働く職場環境を整えていきます。
- (3) 会社は、社員と家族の健康の保持・増進、ワーク・ライフ・バランスの実現、生産性の向上、多様な社員が活躍できる職場づくりなどを総合的に推進します。

TOPICS 健康優良企業(銀の認定)取得

健康保険組合連合会東京連合会へ「健康企業宣言」を行うとともに、健康経営・健康づくりを積極的に推進した結果、2019年8月に「健康優良企業(銀の認定)」を取得しました。

認定取得会社:TANAKAホールディングス株式会社(健銀第808号)、田中貴金属工業株式会社(健銀第807号)、田中電子工業株式会社(健銀第809号)、日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社(健銀第810号)

田中貴金属ジュエリー株式会社では、2019年9月より認定取得に向けた取り組みを進めています。



TOPICS 健康経営優良法人2020認定取得

経済産業省および日本健康会議より田中貴金属グループ5社*が2020年3月に「健康経営優良法人2020(大規模法人)」に認定されました。当初は2021年3月の取得を目標としていましたが、一年前倒しで認定を取得しました。

*田中貴金属グループ5社: TANAKAホールディングス株式会社、田中貴金属工業株式会社、田中電子工業株式会社、日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社、田中貴金属ジュエリー株式会社



健康診断

従業員の定期健康診断および二次検査の受診率100%を継続しています。定期健康診断では生活習慣病検診および婦人検診を加えて実施しています。45歳を迎える従業員は夫婦で人間ドックの受診ができます。定期健康診断の結果をもとにした産業医による事後措置を従業員に適切にフィードバックするために、事業所に常勤する看護職がフォローしています。

健康増進

従業員の健康意識向上のため、さまざまな活動を行っています。

「禁煙キャンペーン」を毎年5月に実施し、社内禁煙dayの設定とポスター・川柳・応援メッセージを従業員から募集して作品を掲示することで禁煙の推進を図っています。2020年4月から、全事業所を屋内禁煙とし、屋内喫煙室を全廃しました。

「健康チャレンジ」は、食事・睡眠の改善や体力づくりなど、個人で無理なくできる項目を選択して2か月間実施し、生活改善を推進します。

CSRの考え方

CSR<企業の社会的責任>を果たすための活動を、日常業務から遊離した別ものとしてではなく、あくまでも業務の一環としてとらえて、実行することを目指しています。また、社示に示されている全てのステークホルダー<利害関係者>に対する基本的な姿勢は、創業当時より一貫してCSR活動の支えともなっています。例えば、「地金はお金」に象徴される創業以来絶えることなく日常的に継続してきた地金リサイクル(P6-7参照)はまさしく環境負荷低減活動となっています。社会貢献活動(P18-19参照)に代表されるコミュニティへの参画、環境における生物多様性への対応(P17参照)などさらに日常業務へ取り込むべく推進活動を継続しています。

- 社示** 創業以来130年を超えて、品質や生産性、技術力の向上にとどまらず、企業の社会的責任(CSR)を含めた企業活動の全てにわたる基本的な姿勢を「社示」として掲げています。
- 企業理念と行動指針** 「社示」に示された基本姿勢のもと、貴金属業界の先頭に立ち、地球環境保全をはじめとするさまざまな事業継続活動を実行し、「ゆとりある豊かな社会」の実現に向かっていくことを「企業理念」に謳っています。また、「企業理念」を実現するにあたり、日常活動において心がけるべき5つの基本的な行動姿勢を「社示」とともに「行動指針」として掲げています。
- 行動憲章・行動規範** 日々の活動の中で、社会的責任を果たし持続可能な社会に貢献するための企業行動原則を「行動憲章」「行動規範」としました。ISO26000の7つの中核主題に則り、国内法令の遵守にとどまらず、国際的に認められた基準も含めて尊重することを前提として定めています。また、本規範の遵守を管理するための適切なマネジメントシステムを構築しています。

田中貴金属グループ行動憲章	
組織統治 人権 労働慣行 環境 公正な事業慣行 消費者課題 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	説明責任と透明性を伴った、健全な事業活動を推進します。 国籍、人種、性別、年齢、社会的身分、職制・職責等に関するあらゆる差別をなくします。 自由闊達な企業風土の中で、安全を最優先し、最高の仕事に取り組みます。 環境保全を推進し、美しい地球の未来に貢献します。 遵法精神に基づき、健全な事業活動を推進します。 お客様の信頼と期待に応え、心はずむ瞬間(とき)を提供します。 ゆとりある豊かな社会を目指し、地域社会の活性化に貢献します。
田中貴金属グループ行動規範	
人権	1)国籍、人種、民族、肌の色、性別、年齢、宗教、社会的身分、家柄、財産、心身における障がいの有無、政治上の意見等による差別となる行為を一切行いません。 2)児童労働および強制労働を一切行いません。 3)若年労働者には適切な作業環境を提供します。 4)適切な労働時間の管理と賃金の支払いを行います。 5)いやがらせ、侮蔑、言葉による虐待、職務上の立場を利用した不当な強要(いわゆるパワーハラスメント)等の行為を一切行いません。 6)相手および周囲の意に反した性に関する言動等(いわゆるセクシャルハラスメント)の行為を一切行いません。 7)会社や個人に対する誹謗・中傷を行いません。
労働慣行	1)人命尊重を最優先し、労働安全衛生に関する法令を遵守します。 2)安全衛生に関する組織的・継続的な活動の重要性を理解し、積極的な参画を推進します。 3)自己の業務に関わる危険性、心身への有害性を理解し、緊急時への備えを行い、訓練を実施し、事故、災害の未然防止に努めます。 4)従業員の団体交渉および集会への参加の権利を尊重します。 5)従業員に、適切な福利厚生を提供します。
環境	1)環境法規制、地域協定および社内ルールを遵守します。 2)環境に有害な影響を及ぼす化学物質の管理の徹底と削減を推進します。 3)省エネルギー、省資源化を進め、CO ₂ 排出量および廃棄物の削減を推進します。 4)水資源の適切な管理を推進します。 5)「貴金属のリサイクル(再資源化)」に積極的に取り組みます。
公正な事業慣行	1)独占禁止法およびその他の公正競争を維持するための法令を遵守し、公正かつ自由な競争を行います。 2)金品の贈与、接待、寄付金、政治献金の類については、法令および社内ルールに従って適正に行います。 3)贈収賄、汚職、強奪、横領を一切行いません。 4)輸出入する貨物・技術については、国際条約、法令および社内ルールに従って適正かつ必要な手続きをとりまします。 5)優越的な立場を利用した、取引条件の一方的な変更や購入強制等となる行為を行いません。 6)知的財産権を尊重し、侵害しません。 7)反社会的勢力および武装勢力と関係する相手とは一切の取引引きを行いません。 8)他企業との相互協力・信頼関係の構築に貢献します。 9)営業秘密について会社ルールに従って管理・保護を行うとともに、営業秘密を他に漏らさず、開示せず、または無断で使用しません。 10)会社の利益に反する個人の行為・行動等、企業倫理上問題のある行為を行いません。 11)会社の資産(情報、製品、商品、備品、機器、消耗品、知的財産、ブランド等の有形・無形の資産等)を適正に管理し、不正・不当に使用しません。 12)取引関係で入手した未公表の情報に基づくインサイダー取引を行いません。 13)コンプライアンス違反防止のため、社内通報制度を設けるとともに、通報者に不利益が無いよう保護します。
消費者課題	1)製品・商品・サービスに適用されるすべての法令を遵守します。 2)競争法や表示に関する法令等に違反しません。 3)お客様、お取引先、従業員等から入手した個人情報保護します。 4)広告等においては、実質的、客観的な根拠に基づく表示を行い、虚偽・誇大な広告を行いません。 5)製品の安全性、製品の品質を確保します。 6)製品・商品・サービスの機能、特徴等に関する情報および、正しい使い方、使用・利用上の注意等に関する情報を提供します。 7)企業情報を開示して、経営の透明性を高めるとともに、企業の説明責任を果たします。 8)誠実な営業活動・サービス活動を行います。 9)過大景品付販売や欺瞞的な販売方法を用いません。 10)会社の信用に関わる品質問題が発生した場合には、適正な対応を行います。 11)お客様からの問合せ、苦情に対しては、社内ルールやガイドラインに従って対応し、適切なフィードバックを行い、問題の再発を防止します。 12)利用資源の最少化、再生材料の活用、省エネルギーを図る製品・商品・サービスの開発に積極的に取り組みます。
コミュニティへの参画および コミュニティの発展	
学術研究、教育、環境保全、文化芸術活動、地域社会奉仕等の社会貢献活動を行い、地域社会との調和・共存を図ります。	

制定日:2008年11月1日 改訂日:2016年10月1日

誠実で健全な企業であるために

法令を遵守するだけでなく、社会倫理に照らして正しい事業活動をグローバルに展開するための取り組みを、グループ全体で継続的に推進しています。

コンプライアンス

田中貴金属グループ行動憲章・行動規範に則り、従業員ひとり一人が行動することによって、法令遵守はもとより社会倫理に沿った公正で健全な事業経営を進めています。

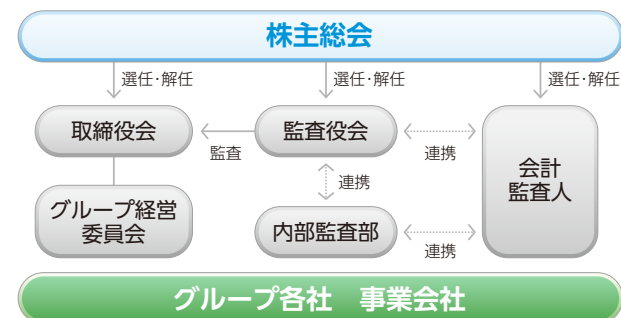
社内通報制度を設け、法令違反や不正行為等の未然防止ならびに早期発見・是正を図るとともに、リスクマネジメント委員会で決定した重要リスクへの対応計画の実行、内部監査部による社内監査、コンプライアンス教育などにより法令遵守の徹底を図っています。

コーポレート・ガバナンス

田中貴金属グループは、健全で透明性の高い経営を実現するために、経営に対する監視の仕組みを充実させ、常に効率的で競争力のある企業となることを目指しています。

また全てのステークホルダーの皆様の権利と利益を尊重し、適法かつ適正な業務執行および会計等を実現するためにコーポレート・ガバナンス体制を構築し、内部統制基本方針を定めています。この体制と基本方針に基づき取締役会・グループ経営委員会・監査役会・内部監査部がそれぞれの役割を果たしています。

●ガバナンス体制図

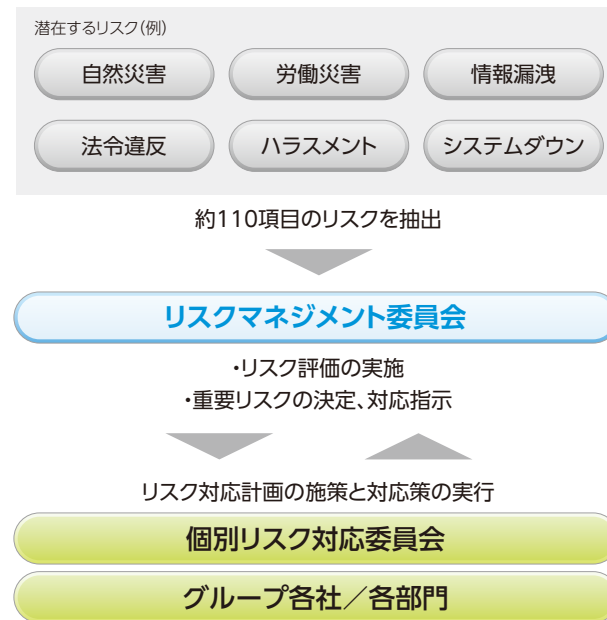


リスクマネジメント推進体制

田中貴金属グループでは、TANAKAホールディングス代表取締役社長執行役員を最高責任者、CSR・広報本部長を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置しています。年2回開催されるリスクマネジメント委員会では、リスク評価、リスク対応状況の進捗確認、対応すべき重要リスクの決定と対応指示を行っています。同委員会で決定した重要

リスクは、個別リスクを管理する各委員会または担当部署がリスク対応計画を策定し、計画に基づきリスク対応策を実行しています。

●リスクマネジメント推進体制図



事業継続計画 (BCP)

田中貴金属グループでは、自然災害などにより事業が中断した場合でも速やかに操業を再開し、お客様に製品・サービスの安定供給を図るため事業継続計画 (BCP) を策定しています。2019年度も継続して国内全工場、本社部門、海外工場2拠点においてBCP訓練を実施しました。また、自然災害が発生した場合の従業員の出勤、自宅待機等の対応基準を見直し、対応マニュアルの改定を行いました。今後も継続してBCP訓練を実施するとともに、事業継続計画を見直すことでさらなる対応力向上に努めます。



BCP訓練 (田中先端有色金属材料(寧波)有限公司)

人権の尊重

田中貴金属グループは、「田中貴金属グループ 行動憲章・行動規範」において、国籍、人種、民族、肌の色、性別、年齢、宗教、信条、社会的身分、家柄、財産、心身における障がいの有無、政治上の意見等によるあらゆる差別をなくし、児童労働や強制労働を一切行わないことを宣言しています。また差別やハラスメントなどの行為を防止するための社内教育を行い、相談や違反を通報できる制度を設け、是正を図っています。通報者は不利益を受けないよう厳格に保護されています。さらに、移民労働者に対しては、採用にあたり労働者から登録料や手数料を徴収しないこと、身分証明書、パスポートまたは労働許可証、ビザ等は本人が保管することなど、労働者の人権に配慮するための手順を定め配慮しています。

ハラスメント研修

当社グループでは2014年度から「ハラスメント研修」を役職者向け・一般社員向けと内容をきめ細かく分けて実施してきました。2019年度からは企業の中で起こり得るハラスメントに広く対応すべく研修内容を見直し、身近な事例やケーススタディなどを取り入れて実施しました。

コンプライアンス教育

コンプライアンス意識の向上と不正行為の防止を図るため、国内・海外駐在員およびナショナルスタッフの役職者を対象として、社内通報制度、独占禁止法遵守、個人情報保護などをテーマに、2018年10月より「e-ラーニング」を実施しています。2020年5月現在で役職者を中心に約400名が受講しました。なお、今後は営業担当者全員と新任役職者を対象にe-ラーニングによる教育を実施する予定です。

社内通報制度

2019年度の社内通報は合計で7件ありました。全ての案件につき、社内通報制度規程に基づいて通報者保護と守秘義務を確保し、適正に対処しています。

安全保障貿易管理についての取り組み

国際的な平和および安全を基盤として世界中のお客様に製品やサービスをお届けするグローバル企業にとって、国際協調に基づく適正な輸出管理は欠かすことのできない責務となっています。田中貴金属工業(株)は、外為法等法令に則り、独自の「安全保障貿易管理規程」(CP)を定め、経済産業省に届出しています。当社は、TANAKAの製品や技術が国際テロ犯罪や核兵器・生物化学兵器等に転用されることを防ぐための慎重な輸出管理を行うとともに、域外適用により事実上全世界に規制が及び米国輸出管理規則 (EAR) などについても常にその動向を把握し適切な対応に努めています。

AEO認定輸出者としての取り組み

田中貴金属工業(株)は、税関当局から認められた特定輸出者 (AEO認定輸出者) として、貨物、輸送、敷地等の安全性の確保、内部監査、委託先管理、税関・社内の連絡体制、教育体制などのコンプライアンス体制を整備するとともに、信頼性の高いセキュリティのもとで製品提供を行っています。

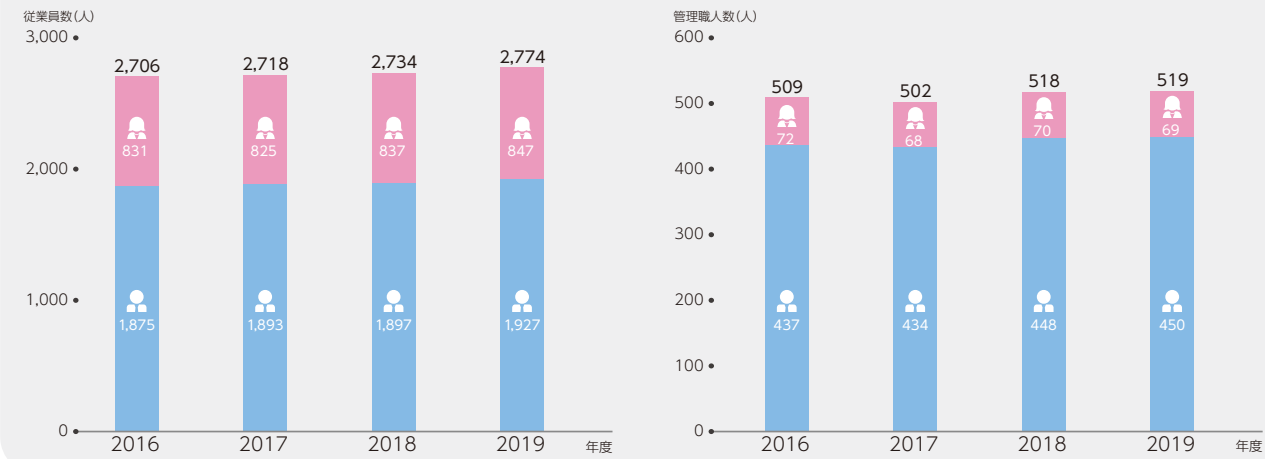


個人情報管理の推進

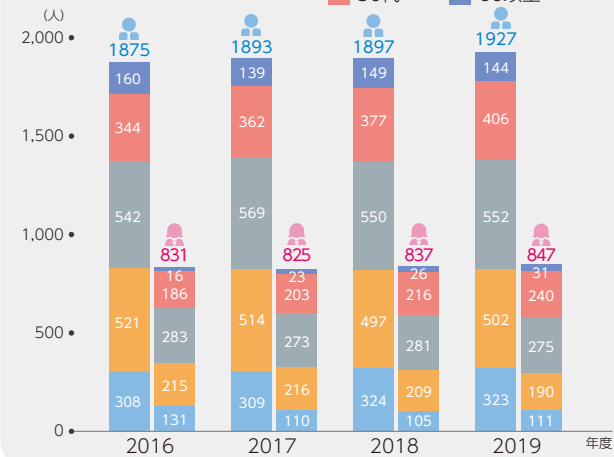
田中貴金属グループでは、個人情報管理規程に基づき、個人情報を「個人のお客様の個人情報」「法人のお客様の個人情報」「社員等の個人情報」の3つのカテゴリに分類して管理を行っています。特に「個人のお客様の個人情報管理」に関しては、ISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム) の認証を取得し、適切な情報管理を推進しています。また、半年に一回開催する個人情報管理委員会において管理状況の確認および継続的改善を進め、個人情報漏えい事故の防止に努めています。

CSRパフォーマンス

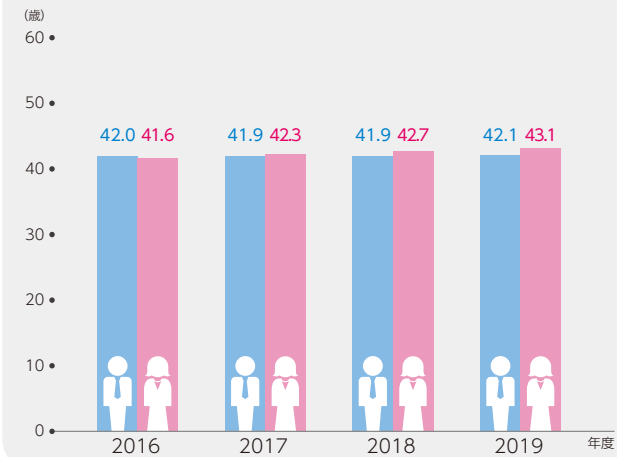
【従業員数・管理職人数(国内)】



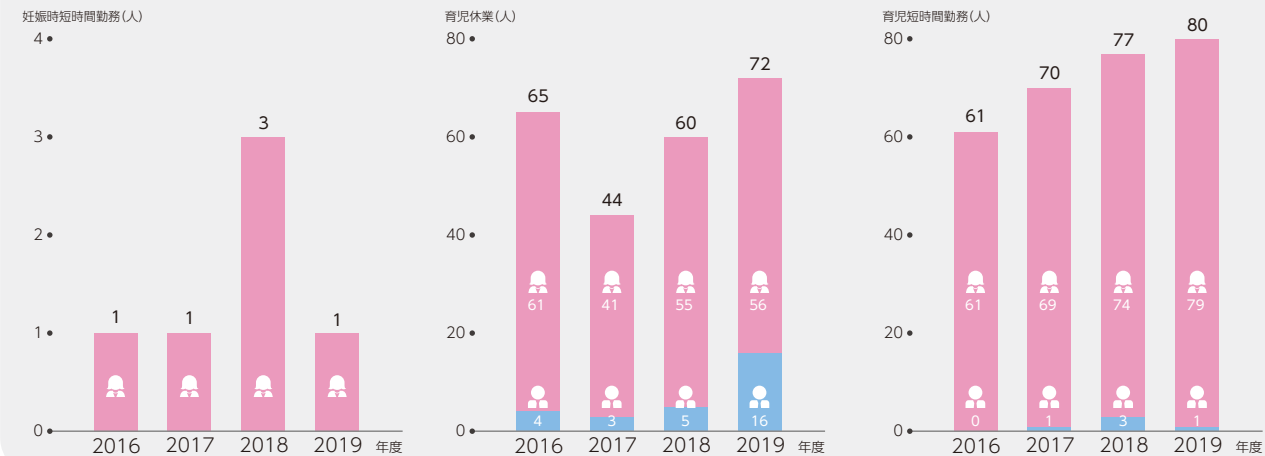
【年齢別従業員数】



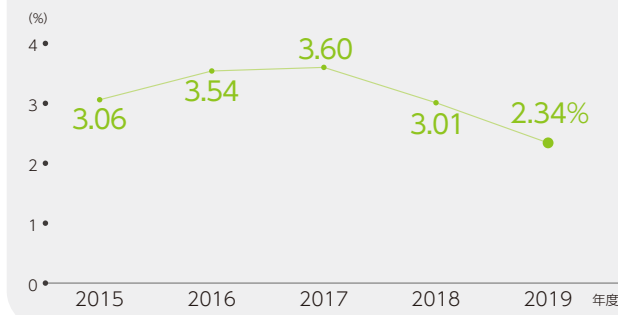
【平均年齢(国内)】



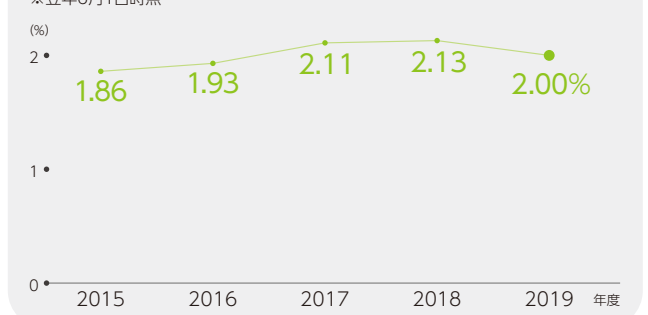
【妊娠時短時間勤務・育児休業・育児短時間勤務】



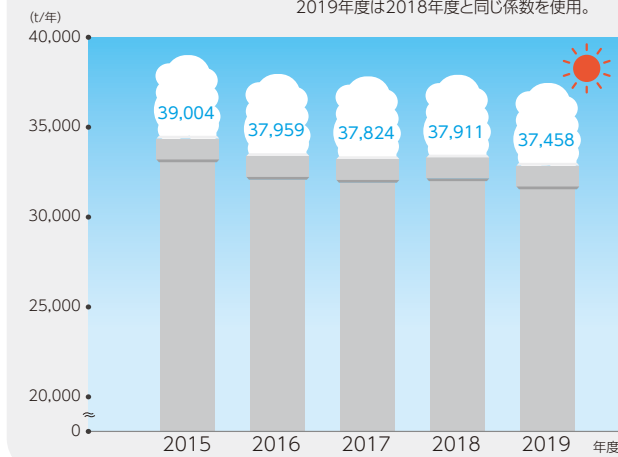
【離職率】



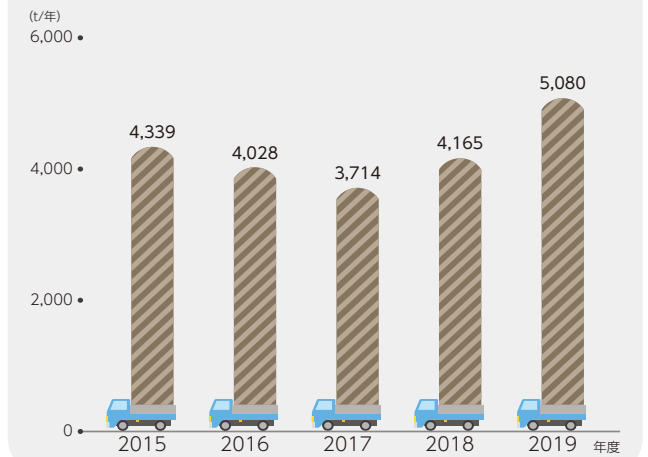
【障がい者雇用率(国内)】



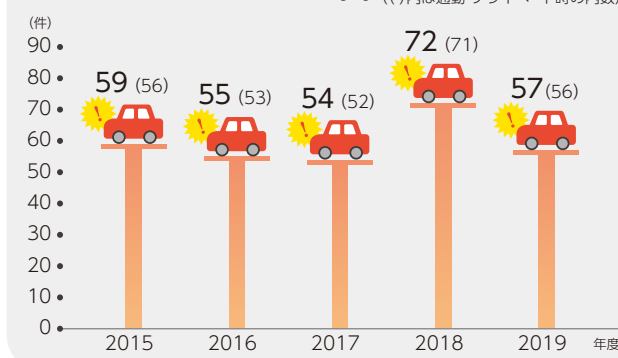
【CO₂排出量】



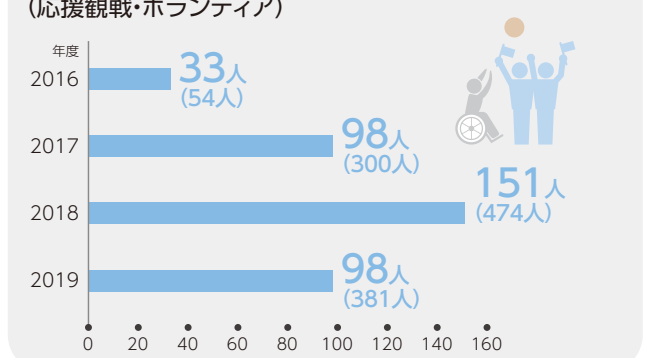
【産業廃棄物排出量】



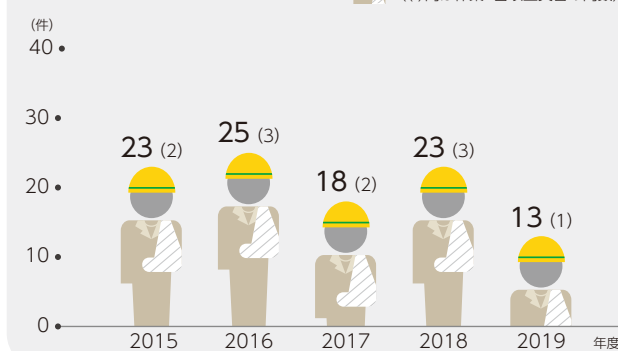
【交通事故発生件数】



【障がい者スポーツ 参加人数】



【労働災害発生件数】



【新規特許登録件数(国内)】



CSRパフォーマンス

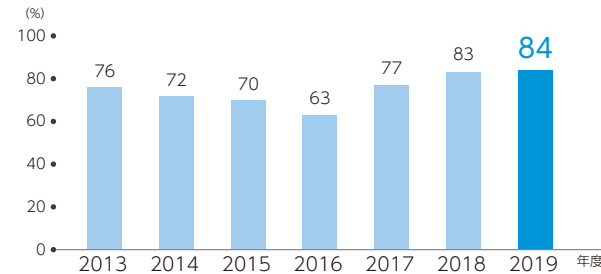
第三者所感

第三者保証

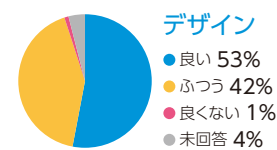
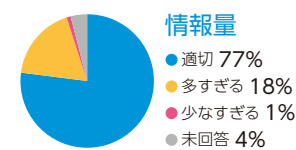
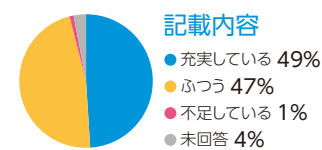
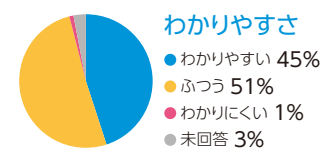
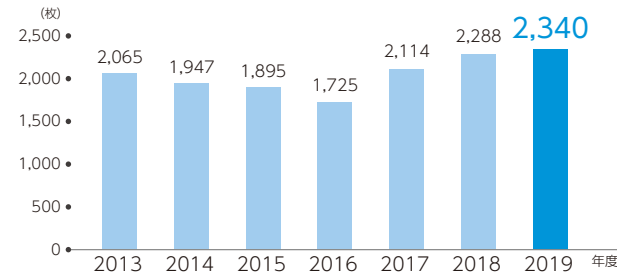


「CSR報告書2019」アンケート結果

国内従業員回収率



回収枚数



CSR報告書説明会

毎年国内全従業員に対してCSR報告書説明会を開催しています。アンケートの回収率は2019年度に過去最高の84%となりました。今後もCSR報告書説明会を通じて従業員への理解浸透を図ります。

昨年度アンケートからのご意見・ご要望

アンケート回答者から毎年さまざまなご意見・ご要望をいただいています。今後も皆様からのご意見・ご要望を参考に改善していきます。

ご意見・ご要望	改善点
環境に優しいインキを利用してほしい	昨年から使用していたNon-VOCインキのマークを裏表紙に掲載しました
紙をもう少し薄くしてほしい	200ミクロンから150ミクロンのLIMEXに変更しました(25%減)
各工場の安全対策の具体的な改善事例を掲載してほしい	P25で紹介しています
東京2020のメダル製作を取り上げてほしい	P18で紹介しています
人事データの情報開示を行ってほしい	新たに製造・間接の有休取得率、介護休暇人数、離職率、年齢別割合を開示しました
顧客満足度調査を行っていることを記載してほしい	P12で紹介しています
研究開発をもっと掲載してほしい	P10-11で紹介しています
リサイクル事業をもう少しアピールしてほしい	P06-07の特集ページで紹介しています
社内通報制度は実際に活用されているのか、実績があるのか知りたい	P29で紹介しています
従業員の声をもっとのせるレイアウトにしたい	今年は4名をTANAKA NOWで紹介しています

CCI研究所代表、日本広報学会・理事「経営コミュニケーション研究会」所属、経団連推薦社内報審査員

清水 正道



【略歴】

日本能率協会、淑徳大学経営学部教授を経て2014年CCI研究所を設立。専門は環境／CSRコミュニケーション。主要著書に『インターナル・コミュニケーション経営』『広報・PR概説』『渋沢栄一に学ぶ「論語と算盤」の経営』『環境コミュニケーション』『CSRマネジメント』『CC戦略の理論と実践』など多数。

“200年企業”というチャレンジに期待します

2013年から今年まで8冊のCSR報告書を拝見しました。この間、基本的な内容は変わっていませんが、毎年取り組み範囲を拡大してきたことを反映して、2020年はさらに充実してきたと評価できます。

とくに今年は、冒頭のトップメッセージに注目しました。創業135年を迎え、田中新社長が登場し2085年(創業200年)に向けた超長期構想を策定するという強い意志が示されました。おそらく直近の経営課題に対応するだけでなく、人口変動や気候変動による事業リスク、新技術や新事業の可能性などが提示される一方、デジタル技術の普及を背景にどのような新世界が想定されるのかも語られるのではないのでしょうか。新世界はやはり「持続可能な社会」であることが求められますが、その新世界の形成にどう貢献するのが“200年企業”には問われます。

今年1月頃から顕著になった新型コロナウイルスの感染拡大は、これからの社会を占う契機のひとつなのかもしれません。感染症は世界の国々の社会・経済活動に大きなインパクトを与え続け、企業にも積極的な対応を迫っています。この難局に対して、医療・衛生の改善はもとより、各種デジタル製品の開発・普及による生産性向上に寄与する企業・団体には大きな期待が寄せられています。貴社も金加工技術を活用して感染症簡易検査キットの開発に取り組むなど、人々の生活・仕事に役立つ研究開発や生産・販売活動を進めてきました。効果的な事業活動を生み出すのは、従業員一人ひとりのアイデアや努力ですから人材育成にも注力してきました。このような活動がさらに強力に進められていけば、2085年には確固とした事業基盤を持つグローバル企業となることが可能です。

環境／CSRリーディング企業になっていくために

CSR報告書は、制作し従業員に配付したら終わりではありません。本報告書そのものがLIMEX活用によって再生されます。貴社には「地金はお金」と口ずさむ習慣があると現場で何回も伺いました。それは素敵な企業文化です。「地金はお金」と考えるのは、リサイクルの発想であり、私たち人間のコミュニケーションの発想です。「おはよう」という挨拶に「おはよう」と返されると心が和んだり安心したりするように、報告をしっかりと受け止め、よく理解し、他の人に伝えて、

自分事として積極的に行動して初めて「目に見えるカタチ」になります。それこそ地金がお金になるように。

貴社は貴金属のリーディングカンパニーです。ですから独自の事業特性を踏まえて、外部調達地金1トン当たりの利益(資源生産性)やすべての地金投入量に占める自社リサイクル地金量(循環利用率)を算出し、資源をどれだけ効果的に活用して利益を生み出しているのかを数字で表してきました。

インサイド・アウトの発想で仲間を増やそう

貴社の資源生産性や循環利用率は継続的に向上しています。またその他の環境やCSR活動、職場環境や企業経営にも特段の問題はありません。しかし「問題がないということ」を説明するのは難事です。得られた効果を説明するには、取組成果に関するデータがきちんと表示されなくてはなりません。

各年度の報告書を拝見すると、地球環境や人事に関する表現やデータの位置が異なっていたり、さまざまな取り組みが分野別に並列で報告されているため、年度毎の成果が比較しにくいなどの制作上の課題があります。ぜひ改善していただきたいと希望します。

また役員・従業員やご協力者の皆様には、この報告書を参考にし

て、貴社のCSR活動について、ご家族・知り合い・取引先とぜひ話題にさせていただきたいと願います。本報告書は毎年1回の発行ですが、従業員アンケートも掲載するという意味では一種の「社内報」です。最近各社の社内報はインターナル・コミュニケーション(IC)のツールとしても使われるようになりました。IC手法は、採用や企業理念の共有、投資家への事業説明などでも活用されています。社内(インサイド)向けの報告であっても、その内容を役員・従業員の皆様が社外(アウト)の方々にとしっかりと伝えていけば、もっと効果的な報告(書)になっていくのです。

ぜひ大いに活用していただきたいと願います。